2023（令和 5）年度

FD 活動報告書

宇都宮共和大学　子ども生活学部
自己点検･評価推進部会
FD 部会
2024年４月

目次

Ⅰ．はじめに……1
Ⅱ．2023 年度　学生による授業改善アンケート……2
Ⅱ－１　教員の基本的姿勢……2
Ⅱ－２　学生への共通した指導 ……2
Ⅱ－３　学生による授業改善アンケートの結果……4
Ⅲ．学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組……7
まとめ ……22
Ⅳ．ＦＤ・SD研修 ……23
Ⅲ－１　ＦＤ・ＳＤ研修……23
Ⅲ－２　ＦＤ研修……25
Ⅲ－３ 2023 年度キャンパス・ハラスメント研修会報告書……35
Ⅳ．教員相互授業参観 ……39
Ⅵ．まとめ ……56

Ⅰ．はじめに

宇都宮共和大学子ども生活学部
学部長　杉本　太平

宇都宮共和大学子ども生活学部では、学部開設（平成 23 年 4 月）と同時に、「宇都宮共和大学自己点検・評価委員会規定」に基づき自己点検評価・委員会を設置し、「宇都宮共和大学自己点検・評価実施計画」を策定している。自己点検・評価推進部会の中に FD 部会を設置し教員の教育活動、研究活動の資質向上、事務作業の効率化等、教育サービス全般の改善のための研修活動を行ってきた。また、近年では内部質保証の観点から、本学部の教育目的を達成するために本委員会においても PDCA サイクルに基づき委員会活動の計画と実行のチェックを行い、次年度への課題を明確にしている。

本報告書は、第4期の大学評価とも関連する学習成果の可視化や学修者本位の観点からの授業改善アンケートに基づく教育の質向上、教員の相互授業参観などに重点を置いた 2023 年度 FD 活動の成果をまとめたものである。

1．学生による授業改善アンケートに基づく教職員の取り組み

（1） 2022 年度学生による授業改善アンケートに基づき、2023 年度新学期を迎えるにあたり、以下の 2 点について全教員が共通認識を持って教育活動にあたることを確認した。

1) 教員の基本的姿勢
2) 学生への共通した指導

（2） 2023 年度学生による授業改善アンケート結果を分析し、それに基づき次年度へ向けての教員の授業改善の取り組みを各自「授業改善に関する報告書」としてまとめた。アンケート回答率に関しては、高回答率を維持するために、組織的な対応策と学生への本アンケートの意義周知などの取り組みについて工夫・改善を行う。

2．2023 度 FD 研修会

2023 年度の FD 研修会は、学修における情報機器利用の頻度が高まってきているため、第1回として「情報セキュリティー研修会」、第2回に「改正著作権法第32条について」、そして文化庁主催による「著作権講習会」のオンライン受講を実施した。また、“キャンパスハラスメントの防止”の観点から、第3回「アンガーマネジメント研修会」、“学修成果・評価の可視化”をテーマに、第4回「ポートフォリオ」を実施した。

3．教員による相互授業参観

授業改善の取り組みの一環として、他の教員の授業を参観し、感想や参観を踏まえての自分の担当授業における改善点を各自「教員相互授業参観報告書」としてまとめた。

Ⅱ．　2023 年度　学生による授業改善アンケート

令和５年４月７日

子ども生活学部　教員各位

学部長

令和５年度　子ども生活学部授業改善目標
―「学習成果」を学生が自覚できる授業改善を―

子ども生活学部では内部質保証及び自己点検・評価における授業改善目標に沿って、現在「学習成果の可視化」に向けての取り組みを進めております。授業や様々な教育活動を通した学びや育ちを学生自身が自覚することは、自発的で意欲的な学習者としての意識が高まり、専門職者として人としての豊かな人間形成に資することに繋がります。本学の建学の精神「全人教育（人間形成の教育）」を実現していくためにも、全教員で「学習成果の可視化」を推進して参りたいと思います。そのための授業改善目標についてご理解、ご協力をお願い申し上げます。

１．教員の基本的姿勢

(1) 教員と学生、また、学生同士の互いの信頼関係をつくり、他者への尊重・共感のできる心地よい人間関係の授業環境をつくることが大切です。
(2) 毎回の授業の達成目標を示し、学生が自発的・積極的に授業に参加できる授業内容や展開の創意工夫をし、学習の成果としての学生の理解や気づきを言語化させ、肯定的なフィードバックを心がけてください。
(3) 授業や教育活動に際しての学生の質問や意見に真摯に丁寧に向き合い、学びに対して前向きになれるような支援をお願いします。
(4) 授業評価については公正・厳正に執り行い、安易に単位を与えるのではなく、到達目標の達成度を学生自身が自覚し、納得できるように指導してください。

２．学生への共通した指導

(1) 授業が学生生活の中で最も大切であることを周知し、「休まない・遅刻しない」（過度のアルバイトへの注意喚起）のは当然のこととして、日々の学習態度や課題の提出などについても必要に応じて、学生の意識が改善するような指導をお願いします。教員と学生、また、学生同士の互いの信頼関係をつくり、他者への尊重・共感のできる心地よい人間関係の授業環境をつくることが大切です。
(2) シラバスを参考に、授業の予習や復習、授業の課題への取り組み（図書館利用の促進）が計画的に行えるように指導してください。
(3) 特別な注意を要する学生については、担任及び学生指導委員会の教員とも連携・協働して、情報や指導上の配慮を共有しながら、指導ができるようにしてください。

学生の生活態度におけるマナー・ルールの厳守や学習に向かう意識の持ち方については、新学期のオリエンテーションなどで指導・注意喚起を行っております。「学習成果の可視化」の取り組みを通して、学生の意識改善に努めつつ、学生の意欲・態度の向上にむけて、共通した考え方で学生指導を工夫し実践していただくよう、よろしくお願いいたします。

３．学生による授業改善アンケート結果

（１）アンケート実施期間

春学期：2023 年 7 月 10 日（月）から 7 月 29 日（土）（第 13～15 回の講義内）
（入力終了日：2023 年 8 月 5 日（土））

秋学期：2023 年 12 月 12 日（火）から 2024 年 1 月 19 日（金）（第 13～14 回の講義内）（入力終了期限：2024 年 1 月 26 日（金））

（２）回答率

図 1 は、学生による授業改善アンケート回答率を 2019 年度からみたものである。2019 年度は 78.6%と低い水準であったが、2023 年度は 95.9%と過去最も高い水準であった。アンケート期間終了時点では、例年 50% から 60% であり、今年度も同じような状況であった。そのため、その後の回答督促指導を経て図 1 に示される最終的な回答率となっている。

一昨年度の反省に、アンケート期間前に講義が終了してしまうので、授業時間内の実施ができない科目があるという意見があった。それを踏まえ、昨年度より、春学期、秋学期ともにアンケート開始時期を 1 か月前倒しし、すべての講座で授業内実施が行えるようにした。

学生のアンケートへの意識と関心を高めるために、集計結果のフィードバックを学生に対して行ってはどうかという意見もあり、今後の課題として検討を進めている。

高い回答率は授業改善を行う上で必要不可欠であるため、初回調査の段階で、授業時間内に回答時間を設けるなどの工夫をしているが、今後も回答率の維持・向上の方策を検討していく必要がある。

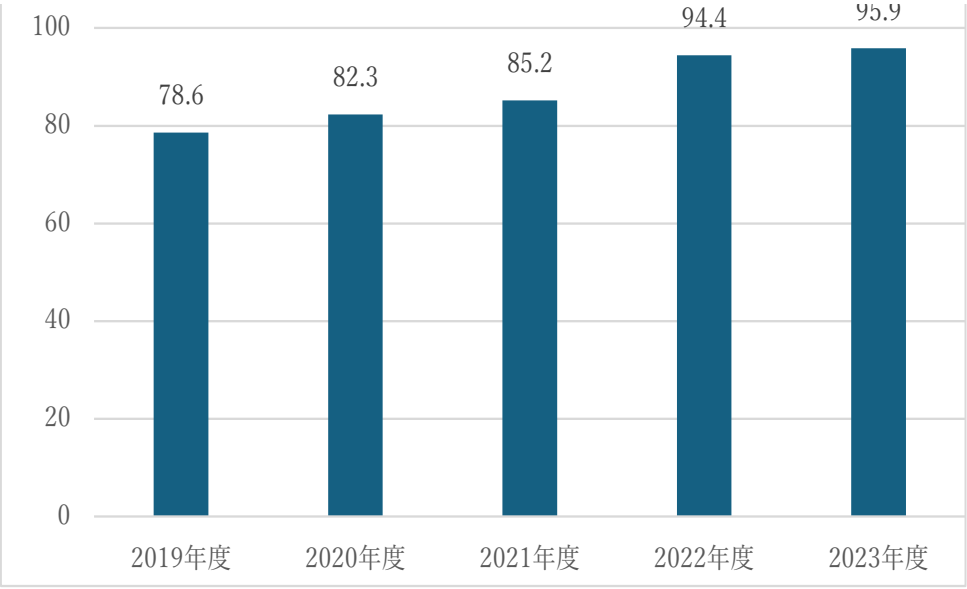


図 1　学生による授業改善アンケートの回答率（%）

（３）学生による授業改善アンケート結果

図 2 は、2021 年度、2022 年度、2023 年度の 3 年間について、10 の質問項目別に得点を示したものである。回答は 5 件法（「そう思う＝5」「どちらかと言えばそう思う＝４」「どちらとも言えない＝３」「どちらかと言えばそう思わない＝2」「そう思わない=1」）で行い、得点化した。得点が高いほど、肯定的な評価であることを示す。

2023 年度の結果を見ると、「講義はよく聞き取れた」4.5、「授業の内容は理解できた」4.5、「知的関心・興味が深まった」4.5、「質疑応答の機会は適切だった」4.5、「マナーの悪い学生に対する指導は適切だった」4.4、「教材は適切だった」4.6、「積極的な関心を持っている」4.5、「マナーを守った」4.5、「受講してよかった」4.5 であり、おおむね学生の評価は良好である。

「授業の予習・復習をした」は、昨年度同様 4.2 と低い結果であったが、前年度、前々年度（4.0、3.9）と比較するとわずかながらも増加しており、予習・復習のシラバスへの記載や教員も意識的に課題を出すなどして予習・復習を習慣化するようにしていることなどが一因として考えられる。家庭での学習習慣が身についていない学生も少なくなく、ただ課題を出すだけでは学習に結びつかない学生も多い。経済的理由からアルバイトが必要であり、充分な学習時間を確保することが難しい学生もいる。授業外で学生の学習をどのようにサポートするか、さらに検討する必要がある。

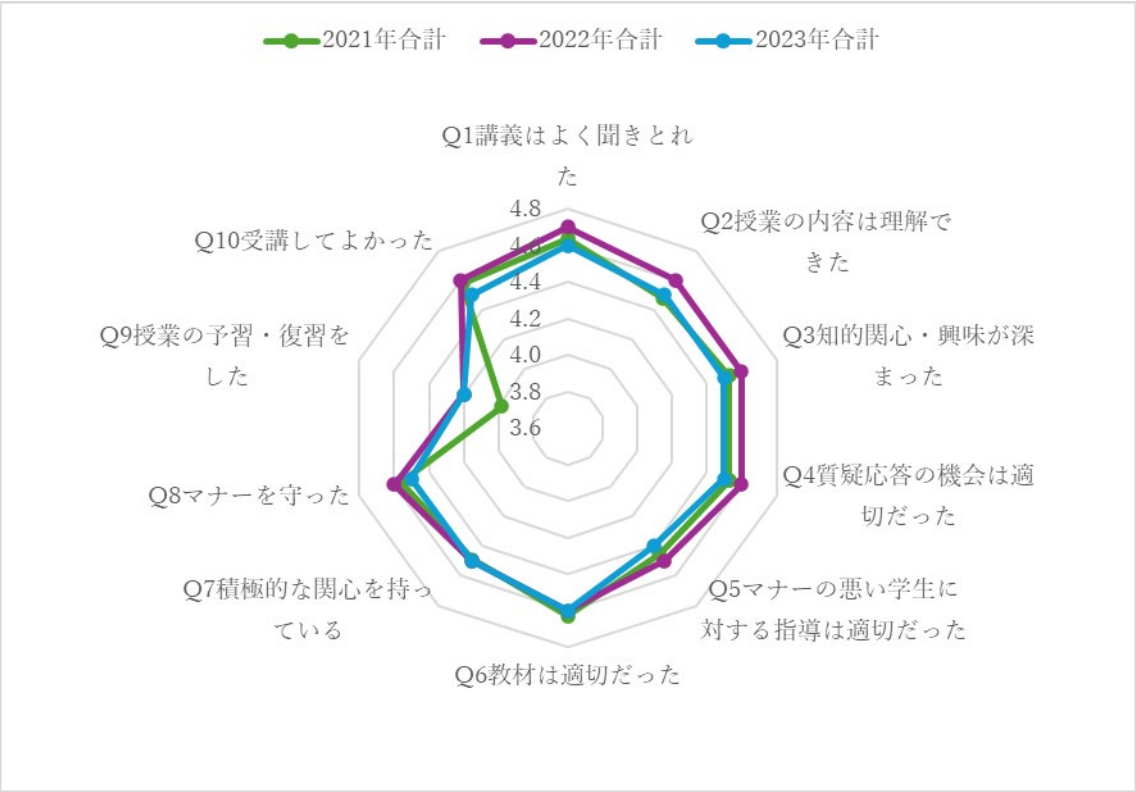


図 2　学生による授業改善アンケート結果

【参考資料 1】

	Q1講義はよく聞きとれた	Q2授業の内容は理解できた	Q3知的関心・興味が深まった	Q4質疑応答の機会は適切だった	Q5マナーの悪い学生に対する指導は適切だった	Q6教材は適切だった	Q7積極的な関心を持っている	Q8マナーを守った	Q9授業の予習・復習をした	Q10受講してよかった
2011年合計	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	3.5	4.4
2012年合計	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	3.5	4.4
2013年合計	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	3.8	4.4
2014年合計	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	3.6	4.3
2015年合計	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.3	3.8	4.5
2016年合計	4.4	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	3.6	4.3
2017年合計	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	3.7	4.2
2018年合計	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	3.9	4.3
2019年合計	4.6	4.4	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5	3.9	4.4
2020年合計	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4	4.6	4.5	4.5	3.9	4.6
2021年合計	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6	4.0	4.6
2022年合計	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6	4.2	4.6
2023年合計	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4	4.6	4.5	4.5	4.2	4.5

Ⅲ.　学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	河田隆
担当科目	（＊担当している科目をすべて記入してください。） 幼児体育、教材研究（運動と健康）、レクリエーション概論、野外活動Ⅰ、現代教養講座Ⅳ、卒業論文

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

（１）教員側が一方方向で進めるのではなく、学生の理解を確認するうえでも　質疑応答の場面を多くして、双方向の関係をつくりながら授業展開を意識的に進めた。
（２）内容は、聞かせるだけで進めるのではなく、時には、作業活動をさせながら興味関心を継続させるための工夫も考慮して授業を進めた。
（３）確認は学生一人ひとり名前を呼び、視線を合わせ確認を取りながら行った。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

授業アンケートの結果から、教員の伝達内容は良く聴きとれており、理解もされていた。そのため関心も興味も増していったようである。また、授業環境に関しても環境破壊をする学生の行為に関して適切に指導を行い、授業環境は良い状態に保たれていたようだ。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

シラバス通りに授業進行はできなかった。反省する点である。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

視覚刺激であるパワーポイントに関して工夫を加えること。また、学習の成果の可視化が重要であるので授業の最後に振り返りを学生にさせる工夫をしたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	杉本　太平
担当科目	人間とは何か･人間と心理･コミュニケーションの心理学･保育相談・保育内容人間関係・保育・教職実践演習・子ども家庭支援の心理学・子育て支援・海外保育研修Ⅰ・教育福祉ボランティア・卒業研究Ⅰ・Ⅱ

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

（１）オリジナルなアクティブラーニング授業手法として、事例研究や行為法を用いた演習の実施方法と内容について、昨年度の反省点も踏まえて、より学生の予習・復習課題の提示や相互学習に重点を置いた改善を行った。

（２）昨年度に新たに作成したレポートなどの作成方法や評価基準についての配布資料を学生に提示し、レポート水準の向上に役立てると同時に、レポートの報告会を適宜実施して、学習内容の深化と相互学習としての成果にも繋げた。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

（１）レポートや事例研究などの課題提出のための自己学習を段階的に積み上げていくように工夫し、学生自身が自己評価や相互評価を行えるようにしたので、授業の予習・復習という点でも意識の向上が見られた。

（２）授業内で試みた工夫点・改善点の成果が授業アンケートの結果を見る限りでは、認められるので、継続した工夫・改善を今後も行いたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

（１）概ねシラバスに沿った授業を実施し、授業目標を達成できたと考える。

（２）授業最初に当該授業のねらい・到達目標を明確に伝え、学生自身がコメントシートを通して達成程度を省察できるようにし、フィードバックも適切に実施できた。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

クロムブックの活用は授業計画や資料の提示に用いた。また、今年度は調べ学習課題を出して、授業内で協力して調査に当たれるように、クロムブックの活用についても改善を試みた。問題点として、授業中一部の学生で授業外の用途に使用している状況が昨年同様に散見されており、授業で使用しない場合は仕舞わせるなどの制限を検討している。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

近年の学生の傾向として、書く力や表現力、コミュニケーション力が低くなっているように見受けられるため、教授内容や授業の難易度、説明の仕方など、学生の傾向に合わせた工夫・改善を検討したい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	桂木奈巳
担当科目	生活講座Ⅰ、生活技術演習Ⅰ・Ⅱ、保育内容環境、子どもと自然環境、子どもと生活演習、子どもと住環境、フィールドワークⅠ、保育内容総合演習Ⅲ・Ⅳ、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

・コロナ明けとなり、授業形態をコロナ前に戻すよう配慮した（グループワークを増やす等）

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

・よい評価をしていただいているが、自由記述の感想を見ると、「楽しかった」で終わる学生が多い傾向である。楽しいだけでなく自身の学びが深まる工夫が必要である。学生自身の評価結果より、教員の求めるレベルには達していない例が多くあるように感じた。学生は「この程度でいい」と思っているかもしれず、学びの深化につながっていない要因かもしれない。次年度は引き続きこの点を改善したい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

・学生の生活体験が年々減る傾向がある影響で、到達目標の達成が困難であった。

・シラバスに沿って実行できた科目とそうでない科目がある。私の科目は自然系が多いため、天候にも左右される。「到達目標をいかに達成させるか」、学生のタイプでその方式は変わると思う（特に演習系）。シラバスの内容に沿って実施するのが必ずしも良いとはいえない。どこを変更したかを自分自身で知っておき、翌年のシラバスに反映させる努力をするのが重要だと思う。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

昨年同様に利用をした。免許資格必修等は資料配布や課題のフォローアップにとどめ、自分で書くことを重視した。それ以外の科目においては、クロムブックを通して課題の提出等を求めた。授業中に伝え漏れた内容や、時間切れで取り組めなかった内容をクラスルームを通じて伝達できるのはありがたい。試験後の模範解答等を示すこともできた。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

・引き続き、授業内でＩＣＴを効果的に使う手法を検討したい。

・学生の力量を早期に見極め、効果的な授業内容を検討したい。それには科目間連携等も必要と思われる。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	田渕　光与
担当科目	（＊担当している科目をすべて記入してください。） 保育内容「健康」　保育内容「言葉」保育指導法Ⅱ　総合演習Ⅳ　保育・教職実践演習　保育・教育課程論　現代の教養講座Ⅲ
１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 ・考える授業　考え合う授業 ・アクティブラーニング（資料活用・グループディスカッション） ・学んだことの言語化　価値化　一般化	
２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 ・自分で努力して授業に工夫を加えたところは学生に評価された。 ・事前学習の捉え方が自分の中で確立していない。	
３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 ・ねらいに沿って授業を展開しているので、シラバスに沿っていたと思う。 ・ルーブリックについてより活用しやすく、学生が学修のガイダンスとして使えるようにしていきたい。	
４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 ・課題の提示、提出に活用した。 ・情報を収集することやプレゼンテーションの作成に使用した	
５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 ・必要であれば、事前にプレゼンテーション資料を開示するなどの工夫をしていきたい。 ・事例を提示し、子どもの発達について考察を深めるなどの形態を多く取ってきたが、教えてほしい学生もいるので、バランスを考えていきたい。	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教　員　名	永　山　一　夫
担　当　科　目	オーラルイングリッシュⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

昨年度と同様、学生の英語力を考慮し、「英文の理解」に主眼を置いた。多くの学生に欠けている基礎的な文法、語彙、表現、文構造を学ぶために、英文を読む学習に多くの時間を割いた。こちらからの一斉説明では学習の深まりに不十分さが見られたため、「自習型」授業ということで個人での読み取り作業に取り組ませた。調べる際にはクロムブック、スマートフォンの使用を奨励し、自立的な学習者となることを目指した。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

全体的にはまずまずの評価をもらっているが、学生の英語力の差が大きく、それにうまく応えられていない面が、自由記述などから窺える。また、「話す、聞く」の学習にも、まず基礎力向上が先決ということで、基礎事項の学習・確認を行いながらの「英文読解」に重点を置いた。「基礎を確認できた」「和訳の力がついた」等の感想が見られたが、「話す、聞く」の学習にも大きな期待を持っていることがわかる。基礎的事項を確実に定着させつつ、それらを土台として、「話す、聞く、発表」等の発展的スキルの学習をどのように取り入れていくかが今後の課題であると感じた。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

自立型学習に時間をかけて授業を進めたため、シラバスの流れに従って進めることはできたが、予定した内容のすべてを扱うことはできなかった。また、「オーラル」でありながら、「話す」活動が不十分であった。また、学生の自立学習に関しては、それを促すためのさらなる工夫・改善の必要性を感じた。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

授業中にクロムブック、スマートフォンを辞書や参考書代わりに活用することを奨励した。練習問題、英文和訳、英作文など英語そのものに限らず、内容に関するものも調べていた。しかし、翻訳ソフト等を用いて、自分で考えることなしに安直に答えを出してしまい十分な学習成果が得られていない場面が見られた。今後、何らかの工夫・改善を加えていかなければならない。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	蟹江　教子
担当科目	『文章表現Ⅰ・Ⅱ』『職業と家庭生活の設計』『社会福祉』 『フィールドワークⅡ』『子どもと地域福祉Ⅰ』 『研究方法の基礎Ⅰ・Ⅱ』『卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

・法律、制度、理論についての理解を促すために、できるだけ現場に出て具体的な事例を知ることにより理解を促すことに努めた。

・専門用語は繰り返し、丁寧に説明するようにした。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

・知識の獲得を到達目標に挙げている科目は、内容の理解が容易ではないと評価している学生も少なくない。映像等を用いて具体的な事例を示す、平易な言葉で説明する、などしているが、学生の理解を促すためにさらに工夫をしたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

・フィールドでの体験を含む科目は外部施設の都合もありシラバスでの順番を変更しなければならないこともあった。場合によっては現場で説明することもあったが、学生の理解は得られたと考える。

・講義 が中心の科目は概ねシラバスに沿っていたと思う。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

・１年生はクロムブックの扱いに慣れている学生が多く、年々、資料の作成が上手になっていると感じる。残念なことに大学 PC がクロムブックのアプリに対応していないので、授業中の利用は限界がある（タイムロスが大きすぎる）。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

・次年度は学生自身が学びを実感できるようにアクティブラーニング（特に反転学修）を試みたいと考える。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	月橋　春美
担当科目	（＊担当している科目をすべて記入してください。） レクリエーション演習Ⅰ・Ⅱ　野外活動Ⅰ・Ⅱ　スポーツと健康Ⅱ 保育内容表現　保育内容総合演習Ⅱ・Ⅳ

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きくだい。

レクリエーション演習Ⅰ・Ⅱの授業においては、アリーナにて実技を中心に行った。演習Ⅰは、最初、教員と学生とのコミュニケーションを図ることを目的に実技を行い、その後、学生同士のコミュニケーションを図ることを目的とした実技内容へと展開していった。演習Ⅱは、グループでの活動が中心となるため、今年度も学生主体でグループ作りを行った。多くのグループは、お互いの考えや意見を聞き良い雰囲気で発表にまでつながり、達成感が得られていたようであったが、中には、今年度もメンバー同士の考え方や意見がまとまらず、発表において達成感を得られないグループも見られた。グループ作りには課題が残る。次年度は、グループ内での関係作りをしっかり行った後に発表へと授業を展開していきたいと思う。また、引き続き、口頭説明だけでなく実際に見本も示し、その都度、学生が理解できたかを目で見て観察していくことを心掛けたいと思う。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

今年度も、学生たちは内容をよく理解できていたようである、学生のレポート内容や発言・発表内容からも、学生たちが比較的理解できていたと感じられた。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

今年もシラバスに沿って授業を組み立てることを心掛けたが、学生の理解度や授業環境の変化によって、内容を変更したり、修正したりすることはあった。学生へのフィードバックの時間が十分に確保できなかったことが反省点である。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

クロムブックの活用は、あまり行わなかった。次年度、連絡事項を伝える方法としては活用したいと考える。また、授業課題提出で使用する場合は、期限以降は受け取れないなどの設定をしたい。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

来年度も、ＩＣＴを授業に取り入れ、効果的に活用する。また、学生が主体的かつ積極的に授業に参加できる環境づくりにより努める。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教　員　名	星　順子
担　当　科　目	（＊担当している科目をすべて記入してください。） 乳児保育Ⅰ・乳児保育Ⅱ、現代の教養講座Ⅰ、保育実習指導Ⅰ・保育実習指導Ⅱ、保育実習事前事後、海外保育研修、子育て支援、子ども文化論、異文化理解と子育て

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

・毎回の授業で、到達目標に沿ったねらいを伝え、学びの観点を意識させた。
・保育実習での実践に結びつくように、乳児保育や子育て支援の理論や概念は、実践場面の映像や写真を用いて説明したり、人形を使って実践したり、保育場面のイメージが具体的に持てるように工夫した。
・保育の現状や課題の理解が深められるように、保育に関わる授業では、保育現場の保育者、異文化理解の授業では、日本語教師や外国人保護者、外国人留学生といった当事者から学ぶ機会を作った。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

おおむね充実していた様だが、講義科目では「質疑応答の時間をつくった」の評価が低い科目がある。今後は、学生の理解度の把握とタイムマネージメントに気を付けながら、質疑応答の時間を確保していきたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

シラバスに沿った展開を心掛けたが、学生の希望や理解度によって、若干の変更があった科目がある。変更の場合には、その理由を学生に説明することを心掛け、クラスルーム等でも変更内容について伝達した。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

シラバスの確認や課題提出、授業連絡で利用した。特に、実習に関する重要な連絡は、授業内の口頭連絡の他にクラスルームでも伝達し、抜け漏れのないよう努めた。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

・理論と実践を往還させる学びに向けて、授業の組み立てや教材等を工夫し、学生が自ら理論と実践を融合できるようにしていきたい。科目間の連携にも取り組みたい。
・質疑応答がしやすい雰囲気づくりを意識し、その時間の確保にも努めたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	石本真紀
担当科目	現代の教養講座Ⅱ、フィールドワークⅡ、実習事前事後演習、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ（施設）、保育実習指導Ⅲ（施設）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅲ（施設）、子どもの生活と福祉、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

各科目の概要、到達目標や評価基準を授業初回に伝えた。主に保育士資格取得の必修科目を担当しているため、各科目との関連性を説明し、保育実習を意識した授業を展開した。特に子ども家庭福祉や社会的養護Ⅰについては、基本理念、用語についてワークシート等で繰り返し確認した。ゲスト講師からの講義や子どもの居場所や子育てに悩む保護者と子どもが利用する施設を実際に見学することで、地域における切れ目のない支援の重要性に気づけるように働きかけた。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

設問に対する回答については、「そう思う」が大半を占めていた。講義や実習を通して、保育所以外の児童福祉施設等に関心を持つようになったという自由記述が多かった。講義や実習を通して、子どもや障害のある方の暮らしや支援が必要な家庭の生活課題について多くの学生が関心を持つようになったようである。昨年度より、予習や復習に関する項目が上がったが、次年度も学生が主体的に学ぶ環境を整えていきたい。選択科目で実施した施設見学については満足度が高かった。伝える内容が多く、学生の質問に十分に答える機会が作れてない状況については今後の課題としたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

概ねシラバスに沿って実施できた。リアクションペーパーで学生が理解しにくかったと回答した内容については説明を加えるなど、学生のニーズも取り入れて授業をおこなった。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

事前学習として、クラスルームを通じて課題の提出を求めた。また、資料を提示し、学びの定着を試みた。

課題として取り組んだ内容については、小グループにわかれ、発表してもらった。課題に取り組むことで、保育所以外の児童福祉施設への興味関心が深まったとの意見があった。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

・資料が多くなる傾向があるため、シンプルかつ学生が取り組みやすい資料づくりに心掛けていきたい。
・効果的なICTの活用方法、アクティブラーニングの手法などを更に学び、学生が自ら学びを深化することができるようにしていきたい。
・学びやすい環境を作るために、個別の対応をしつつ、視覚的に理解しやすい教材の開発などをおこなっていきたい。
・次年度も教材研究に力を入れ、学生が主体的に学ぶことができる環境を作っていくよう授業の組み立てを工夫していきたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	松岡展世
担当科目	発達臨床心理学、現代の教養Ⅱ、障害児保育、保育実習指導（施設）、発達心理学、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、子どもの理解と援助、特別の支援が必要な子どもの保育、保育・教職実践演習、卒業研究指導Ⅰ

1．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

（１）必修授業で人数が多い科目が多かったが、全員の理解度確認のため毎回理解した点をまとめて提出させ、次回冒頭でフィードバックとして質問への回答や補足、良かったコメントの講評を行い、双方向的にやりとりするようにした（評価は二分した）。

（２）理解度確認と定着のため、定期的に Kahoot!というアプリを使ったクイズ形式の問題を解く時間を取った（大変好評だった）。

（３）ほとんどの授業で教科書を使用せず、最新研究を盛り込んだ自作プリントを作成して使用した。また、現場での事例を多く紹介した。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

聞き取りと理解度で平均点に達していないものが多くみられた。情報を盛り込みすぎの上説明も長く、集中力を維持するのが難しかったことが反省点としてあげられる。

また、グループディスカッションを多く取り入れたが、教員が各グループを回って聞き取りやファシリテートをした結果、時間が延長するなど、時間配分に課題が見られた。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

予定した授業内容が終わらず、翌回に持ち越すことが多かったのが反省点である。

授業冒頭で行う前回コメントのフィードバックや補足、グループディスカッションの在り方を見直したい。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

授業での学びを自分の言葉でまとめる課題を毎回 Google クラスルームにて提出させた。教員が学生の理解や誤解を確認する上でも有益であった。また、授業中に匿名で意見発表できるサイト Learn with one を活用し、多くの学生から「意見を出しやすい」「皆の考えが分かってよかった」との感想が寄せられた。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

膨大な時間をかけて授業準備したが、多くの学生にとって聞きやすくわかりやすい授業になっていなかったことが分かった。今後、内容や説明の仕方、情報量など精査し、わかりやすく実践的な授業づくりを目指していきたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	市川　舞
担当科目	保育原理、保育内容総論、子ども理解と評価 保育内容総合演習Ⅰ、保育内容総合演習Ⅲ、保育内容総合演習Ⅳ 教育実習、実習事前事後演習、 保育・教職実践演習 卒業研究、卒業研究指導

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

演習科目では、交流保育や校外学習などの機会を設け、子ども・教材研究・環境構成・保育の過程について実践的な理解を得られるようにした。

また、講義科目においても学習内容の理解の具体的理解の深化や定着を図るため、インプットのみならず、グループワークや発表などアクティブラーニングでのアウトプットの機会を多く設けるように心掛けた。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

全ての項目において、学部平均以上のポイントを得ており、学生からは一定の評価を得たと考える。「予習・復習」については他の項目と比較するとポイントが低い。しかし、実際の学生の姿としては、十分に事前学習・準備、振り返り課題などに取り組んでいることを確認しているため、本アンケートの回答に反映されないことを課題として感じている。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

シラバスに示した 15 回の「授業内容」の順序等については、学生の実態や天候等に応じて前後した。「到達目標」の達成度の観点からは、おおむね実行できた。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

chromebook や Google classroom は便利な一方、学生自身が自己管理する力が弱くなる課題が見出されたため、今年度は、classroom 上からの提出課題と紙ベースの課題の両方を課すことにした。その結果、低学年であるほど紙ベースの課題の方が提出率が高くなった。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

学生自身が学びを実感できるようアクティブラーニングの機会を充実させたい。また、授業に取り組む基本姿勢に困難さがある学生への対応方法についても検討したい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	新井　祐子
担当科目	音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 音楽理論 保育内容総合演習Ⅱ 卒業研究、卒業研究指導

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

学期中間にクラス内試演会を設定し、人前で発表する機会を増やした。発表の場が定期的にあることで意欲をもって練習に取り組み、実践力の向上や自身の学びの確認につながった。また、仲間の演奏を聞き合うことで音楽の楽しさを共有し、自身の演奏に反映させるなどの相乗効果も見られた。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

ほとんどの項目において学部平均以上の評価を得られたが、講義科目における「予習・復習を行ったか」についてのポイントが低かったため、紙ベースの提出課題を課すなど具体的な取り組みを示していきたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

概ねシラバスに沿って実行したが、学生の習熟度にばらつきが見られ、一部課題を減らす或いは変更するなどして対応した。到達目標とその学年の特性や習熟度、両方に合った教材設定の見極めが必要であると感じた。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

学生への諸連絡は classroom を使用しているが、演習が中心のため利用頻度が少ない。学期末の振り返りや指導案作成などにクロムブックを活用していきたい。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

音楽実技の技術向上だけでなく、音楽表現活動や教材づくり等、保育の現場に活用できる内容を取り入れていきたい。また、グループワークを取り入れアクティブラーニングの充実を図りたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	大島美知恵
担当科目	音楽療法概論、音楽療法Ⅰ（基礎）、音楽療法総合演習、音楽療法実習、音楽療法Ⅱ（臨床）、音楽療法Ⅲ（技法）音楽特講Ⅴ、リトミックⅠ、リトミックⅡ、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅵ、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

事前学習の課題を授業内でしっかりと活かして目標に向けた学びになるよう心がけたが、学生によって課題の仕上がりに差があり、授業に反映するのが難しいことがあった。より具体的な課題の出し方をするように改善したいが、あまりに細かな指示は学生の独創的な考えや発想を妨げることにもなりそうで悩むところである。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

予習・復習に関して、講義科目では毎回の小テスト、実技科目では課題のチェックリストを用意していたこと、動画での提出を認めたことなどから、例年よりも取り組めていた様子が伺える。しかし少数ではあるが提出率が低い学生もいたので、引き続き指導の工夫を重ねていきたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

授業そのものは概ねシラバス通りに進んだが、学生の状態に合わせて各項目の配分については変更した。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

クロムブックの使用については、リトミックで一人ずつピアノの課題を見る際の待ち時間に鍵盤アプリを利用して練習させているが、最近はクロムブックを持参せず、スマートフォンで行う学生が少人数であるが増えてきている。その他の教科でも、資料をアップしてそれを見ながら説明をする際にも同様の学生が多い。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

学生たちが自主的に学べる方法を考えていきたい。

特に実技科目については苦手意識を持つ学生にスモールステップで学習効果が分かる工夫を考えていきたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	霜触　智紀
担当科目	（＊担当している科目をすべて記入してください。） レクリエーション概論、スポーツと健康Ⅰ・Ⅱ、幼児体育、教材研究（運動と健康）、野外活動Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、文章表現Ⅰ、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。
・グループディスカッション
・リアクションペーパーによる授業内容の質疑に対する次時の回答
・理論と実技の融合

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。
・「質疑応答の機会を適切に作った」「教材は適切であった」の項目は特に学生に評価された。
・予習復習の在り方について、引き続き検討していきたい。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。
・シラバスに沿ったテーマで毎時間展開できた。必要に応じ、適宜学生のニーズを取り入れた。
・授業内容を盛り込みすぎて、駆け足講義になってしまう場面があった。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。
・支援案作成、しおり作成等、適宜使用した。学生が各自で操作する中で各々ICT の活用方法を見出していた。3、4 年では大半の学生が使いこなしているように感じる。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。
・担当授業の意義・意図を明確に伝え、保育への導入について履修者への興味・関心を高めることが求められる。
・今年度子どもたちへの運動遊び指導経験から学んだことを授業に組み込みたい。
・理論と実技の融合を引き続き目指したい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023 年度）

宇都宮共和大学　子ども生活学部

教員名	小野　貴之
担当科目	子ども家庭支援論、保育方法論、保育内容総合演習、教育実習（観察）、保育内容言葉、発達支援論、保育実習指導Ⅰ

１．今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。

保育における援助や発達支援等について、実際に現場ではどのようなことが行われているのかといったイメージを学生が持ちながら講義を聞くことができるように、実際の現場の写真を活用したり、現場で実際に起きたこと等を伝えたりした。

２．学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。

No9 の「私は、この授業の予習あるいは復習をした」という設問の回答結果があまりよくなかったため、今後はこの点を改善していきたいと考えている。

No４のマナーの悪い学生に対する指導は適切であったかという設問の回答結果があまりよくなかったため、今後はこの点を改善していきたいと考えている。

３．今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。

それぞれの授業でグループワークの時間を何度か設けていたが、学生同士が学びあう機会を増やしていくためにも、今後はさらに回数を増やしていきたいと思う。

児童文化財を作る際には、作り方だけでなく教材の意図や活用する場面等について、より学生にわかりやすく伝えられるように改善していきたいと考えている。

４．クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。

保育方法論においてクラスだよりを作成する授業を行う際にクロムブックを使用した。クロムブックを使うことに学生はとても慣れている様子だったが、画像を貼り付けたりするときにずれてしまうといったこともあり、難しさを感じている学生の姿も見られた。

５．今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。

学生同士が学びあえるような機会を授業の中でさらに設けていきたいと考えている。そのためにも、グループワークや調べたことを発表する機会を今後の授業において大切に位置づけていきたいと思う。

マナーの悪い学生に対しての指導を適切に行えるように心掛けていきたいと思う。また、学生が授業に集中できるように授業の内容や指導方法について考え、今後に活かしていきたい。

まとめ

教員による授業改善等に関する報告書では、今年度(2022 年度)の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫点や改善点、学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解、今年度の授業を振り返っての反省点、クロムブックの活用、今後の授業での改善策の５点について、記入を求めた。

今年度はコロナウイルス感染症が 5 類へと移行し、少しずつコロナ前の授業形態へと戻りつつある 1 年であったように思われる。教員のコメントからは、それらに様々な工夫をもって善処したことがうかがえる。また、学生一人ひとりに目配りし、丁寧な指導を心がけるとともに、意欲や関心を引き出すために、外部との連携や映像資料の活用など、学生が理解しやすいように、イメージしやすいように講義に工夫を凝らしていることがわかる。このような姿勢が学生による授業アンケート調査でも評価され、良好な評価を得たものと思われる。

一方、教員報告の中で授業改善の視点として挙げられた主なものとしては、次の３つが挙げられる。

第一に、アクティブラーニングの工夫・改善である。すべての教員が学生の意欲・関心の喚起、また主体的・対話的で深い学びの実現のためにアクティブラーニングを導入している。今まではコロナ禍のために、校外学習、グループ活動などが制限を受けたが、徐々に規制緩和に向かうことを踏まえ、アクティブラーニングの手法を取り入れた教授法のさらなる研究、開発が強く意識されていることが窺える。

第二に、ICT の活用である。一昨年度から新入生が一人一台の ICT 端末（クロムブック）を持つようになったこともあり、全学年において授業内外で ICT 活用の機会が大幅に増加した。事前学習の指示、課題提出とそのフィードバック、情報共有、意見交換、発表、外部との連携、ポートフォリオ作成などに活用されている。今後もその効果的活用法の研修、模索の必要性を挙げる意見が多く見られた。また、ICT 利用の際の課題もいくつか指摘されており、改善策を考えていくことが求められている。

第三に、学修成果・評価の可視化である。代表的な取組としては、コモンルーブリック、ポートフォリオの作成などが挙げられるが、その他にもそれぞれの教員がそれぞれの授業の中で様々な取組を行っていることが窺える。そのエッセンスとするところは、到達目標や評価規準を学生に明示し、学生が自立的に自己の学修を組み立て、事後には適切な自己評価と省察ができるような工夫をしている点である。学習成果・評価の可視化については、FD 研修「ポートフォリオ」での学生の作品からも、学修の主体化、深化に大きな効果をもたらすことが示されており、そのことは全教員の共通認識となっている。今後のさらなる工夫・改善が期待される。

上掲３点の他には、昨年度からシラバスに明記された事前・事後学修を促すための工夫、近年拡大傾向のある学力差にどう対処していくかなどが挙げられていた。

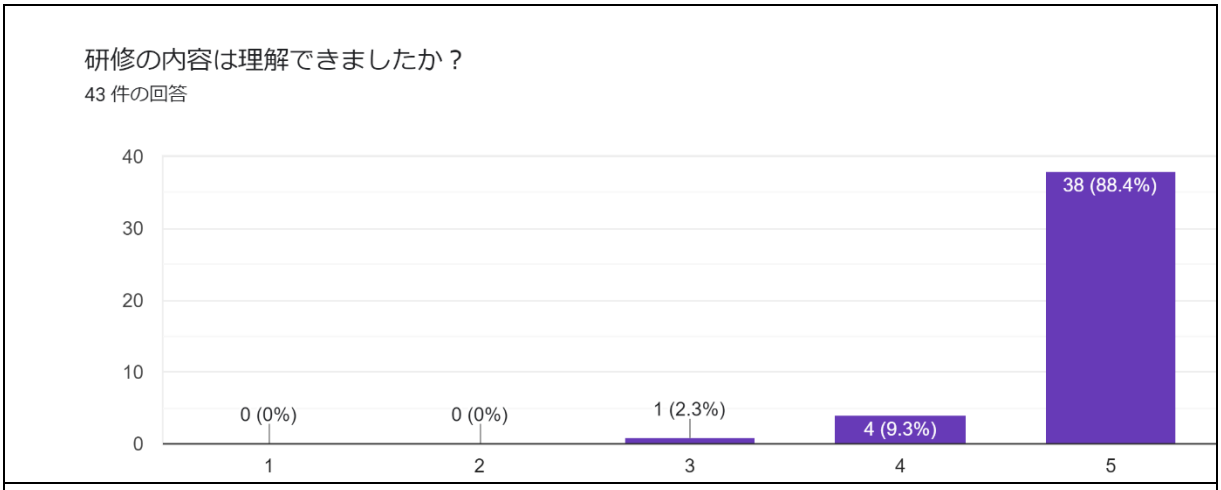
以上のことを考慮し、今後の FD 研修のテーマを設定していきたい。

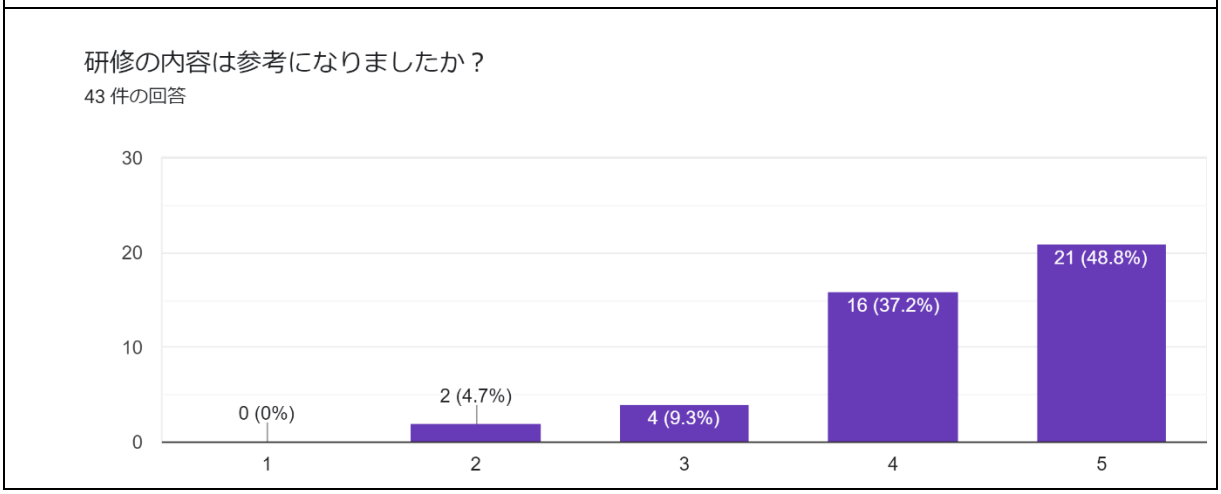
Ⅳ．FD・SD研修

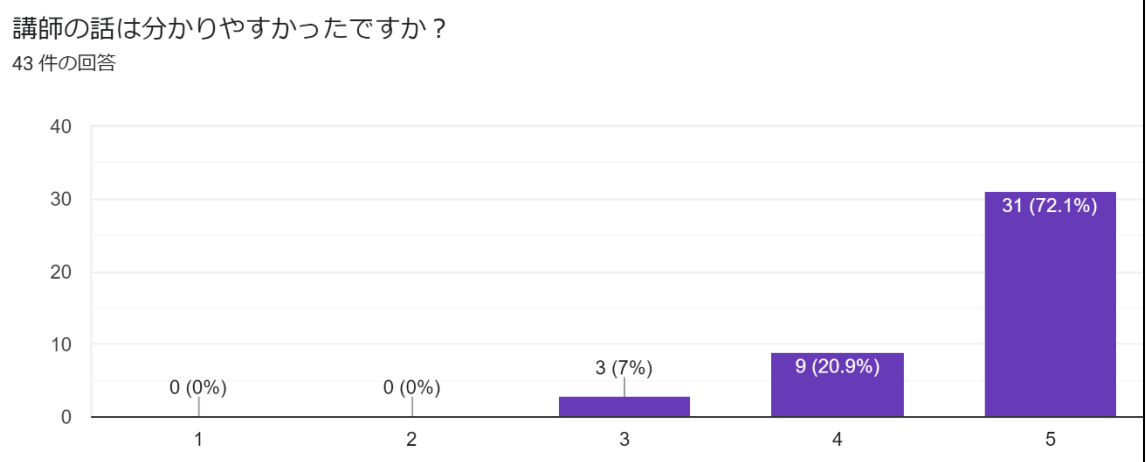
１．　ＦＤ・SD研修

（１）第1回

日　　時：2023年8月21日（月）15:00～16:00
会　　場：宇都宮共和大学　宇都宮シティキャンパス 401 講義室
テ ー マ：「若人の特徴を活かした指導方法」
講　　師：（株）エイジェックスポーツ総合事業部長　辻　武史氏
　　（元プロ野球福岡ダイエーホークス選手、栃木ゴールデンブレーブス初代監督）
受講者：宇都宮共和大学・宇都宮短期大学　教職員　53 名
事後アンケート結果：







◎今後，どのような研修を希望しますか？

- ChatGPT など生成系 AI について（メリット・デメリットなど）（3 名）
- 最近 ChatGPT が普及していますが、使い方の注意点や授業の中で学生にどのように活用するようにアドバイスしたらよいかなど知りたいです。
- パソコンの機器やアプリの操作、今回も含まれていた今の若者の価値観や傾向についての「共通理解」、アクティブラーニングについて
- 情報リテラシーが高まる研修（知識・スキルなど）
- ICT 教育の多様性が学べる研修
- 大学での教授（指導）と評価
- 授業における学生への伝え方に関する研修
- コミュニケーションに困難さを感じている学生への指導
- 合理的配慮が必要な学生への対応について
- 今後も指導における心構えや大切さについて、実体験を聴講できる研修を希望します。
- 学修成果の可視化、保育者養成校の在り方など
- さまざまな困難さを抱える学生・保護者への対応、専門機関との連携など
- 発達障害等の対応について
- 学生のメンタルヘルスのサポートなど
- 今回のように外部講師による研修を希望いたします。
- 著名人による講演など
- 様々な分野で第一線として活躍される方の講話研修が拝聴できる機会を希望
- 今回のような異業種、異分野で活躍されている方の講演
- もう少しテーマに即した内容を希望します。
- 今回の研修では、現代の若者にどのような指導が必要かをこれまでの教員としてのスタンスを改めて確認できた内容でした。とてもためになった研修会でした。視点を変えて、学生支援・指導として教員に求められるものの研修もよいのかと思いました。
- 『「対話的学び」をつくる 聴き合い学び合う授業 』の著者の石井順治先生のお話を聞いてみたいです。小中校であっても、対人間で、集団で教育を行うという点で共通するところがあるように思います。
- 仕事に活用できる実践的な内容の研修を。
- スポーツ心理学のお話をさらに聞いてみたい。
- 近年に改正・変更点などのあった事項に関する研修
- 業務の中で適切に伝えつつ、メールを減らす工夫
- 異分野の最先端でご活躍されている方のレアな情報を希望します。

- 「伝えること」に関する研修。伝えたつもりでも正しく伝わっていなかったり、聞く側も自分に都合よく聞いてしまったり。それにより業務が滞ることがあります。皆が正しく伝えあうことで、業務の効率化も図れます。

（２）第2回

日　　時：2024年3月1日（金）13:50～14:20
会　　場：宇都宮共和大学長坂キャンパス　5 号館 501 教室
テーマ：「情報セキュリティ研修会」
講　　師：宇都宮共和大学長坂キャンパス事務局　学務課長　正田　泰介氏
受講者：宇都宮共和大学子ども生活学部　専任教員 15 名
使用テキスト：「情報システム利用の手引き」（抜刷り）
・情報セキュリティ・ポリシー
・情報セキュリティ・ガイドライン
・情報セキュリティ・インシデント発生時の対応について

２．ＦＤ研修

（１）第１回

日　　時：2023年5月12日（金）16:00～17:10
会　　場：宇都宮共和大学長坂キャンパス 5 号館　501 教室
テーマ：「IB 教育認定校への道のり」
講　　師：認定みどりこども園　園長　岩本　眞砂枝　様
受講者：宇都宮共和大学・宇都宮短期大学　教職員　99 名
事後アンケート結果：

・幼児期における IB 教育の目指すものと日本の幼児教育が目指すものは親和性がとても高いことを感じました。 保育現場における、幼稚園教育要領等に示されている内容の正しい理解と実践への努力が重要であることを再確認しました。
・保育の在り方について考えさせられました。時代と共に求められる保育内容も変わっていき、養成校としても学生に教える内容を変化させていかなければならない。実際に園長先生として保育の現場に長年携わっている岩本先生の視点とお言葉には説得力がありました。子どもたちはすでに幼少期からいろんなことを学んでいる。子どもたちに沢山の経験をさせられる保育者の育成のために、教員側も常に学び続けなければならないと自覚しました。
・インターナショナルバカロレアの概要や認定校について調べるきっかけとなった。
・IB 教育に関しては、本学の全人教育に通じるものがあると思いました。先生の理念は、教育現場に必要な普遍的且つしっかりと現状を見られた立派なお考えで、幼児教育に見

える現代社会と、大学の現場は無関係ではないのをよく理解できました。

・IB 教育の目的・方法、近年の動向、日本の現状などアウトラインが明確になった。

・保育の現状を伺い、現在、本学で課題がある学生の幼児期の姿が目に見えるようだった。知識基盤社会への転換に向け、カリキュラムや教授方法等の課題があるが、本日お話いただいた「IB 教育」が解決する方法の一つだと実感したが、取り組むにはかなりの労力が必要で、これらに対応できる人材の育成も課題だと感じた。

（２）第２回

日　　時：2023年8月23日（月）～9月10日（火）
会　　場：自由
テ ー マ：「教育における ChatGPT の活用について」
講　　師：東京大学　吉田墨研究室
受 講 者：宇都宮共和大学子ども生活学部　専任教員 15 名および非常勤講師（希望者）
方　　法：東京大学オンライン研修サイト「教育における ChatGPT の活用について語ろう」https://www.youtube.com/watch?v=lwccHzqfuvc（前半部分）を視聴し、事後アンケートに記入する。

事後アンケート結果：

１）子ども生活学部で生成 AI を活用する場合において、文部科学省の事務連絡通知が示しているものに、付け足して活用するものや不適切と思われることはありますか。

・本学部では、乳幼児への関わりが重視されることから「コミュニケーション能力の育成」の観点を付け足して考える必要がある。

・文科省の通知では「口述試験」との文言はあるものの、ディスカッションや会話の内容については、レポートが重視されている以上、乏しい。従って、レポート作成の視点のみならず、コミュニケーションにおいて本ツールがいかに活用できるかについて、議論が必要なものと考える。

・今のところ思い浮かばない。実際に使い始めるといろいろと出てくると思うが、とりあえず出だしはこれでよいのではないかと思う。

・文科省の通知で示しているもので良いとおもいます。

・対話できる AI は、画期的なものであると思う。設問の工夫次第で回答が多くあり、多くの情報を獲得できないと思う

・基礎知識不足のためコメントできる状況にない。

・ブレインストーミングに活用できるのか、できないのか。できたら使いたいと思う。

２）今後、授業で生成 AI の活用を学ぶ場を設けようと思いますか

・必要に応じて設ける。

・考えてはいるが、まずは自分がどのような場面でどのような有効な使い方ができるかを学ぶ必要を感じている。
・適切な活用方法や禁忌事項、不適切な取り扱いなど、リテラシーとしての機会は設ける必要はあるが、授業内で積極的に取り扱わなくても良いと思います。
・自分が持っている授業では演習中心のため、生成 AI を使う機会はあまり考えられないが、卒論に関しては学生に適切な指導を行いたい
・まだ分からないことが多いので、今は考えておりません。
・利用価値があるので生成 AI を使用したい。
・自分の授業での活用は、まだ勉強不足のため来年度からは難しいが、やがて取り入れたいとは思う
・AI 活用を学ぶ場を設けることは現状では考えていない。
・現時点では予定していません
・今後、上手に利用できなければ困る場面も多いと思う。授業で利用したいと思うが、具体的方法はまだノーアイディアである。何らかの形で活用したいが
・思いません。私自身がまだ学生にそのような場を提供できるレベルにないように思います。
・自身が生成 AI について不案内であるため、自分が担当する授業内で設問の内容を扱うことは、現時点では困難と考えています

３）その他、何かご意見をお願いします。
・学生が使用できるようになれば、コピー&ペーストでの提出も増えると推測する。熟読すれば本当に提出学生が書いたものかを判断することはできるかもしれないが、毎回そうなると教員の負担も底知れず、学生の論理的思考も育まれない。そこで私は、レポートの出し方の工夫が必要と考える。それは「～の活動を通してレポートを作成せよ」等、本学独自の活動による体験談を踏まえた論述を求めることである。一般論的なレポート課題では本ツールには対応しきれないと思う。
・使用のルールだけでは不十分で、使う側の意識（倫理）の部分が大きく、また重要であると思う。使い方によっては、自分の学びが最大になることもゼロになることも、また場合によってはマイナスになることさえもあることを学生によく理解してもらい、自分で適切な判断ができるように説明していく必要があると思う。
また、大学として ChatGPT 等を学生全員に使用させるのか、任意とするのか、使用する種類を指定するのか限定するのか等の問題も検討する必要があると思う。「全員」とした場合には格差が出ないような配慮も必要になってくると思う。（例えば、有料版か無料版かなど）
・いずれにせよ、実際動き出してから多くの課題が出てきて、その都度対応を考えていくことになると思う。何しろ世界的に未知の領域なのだから。

・学生の学修成果を評価する方法として、レポートのみ、試験のみではなく、授業内での取り組みや課題成果の提出やアクティブラーニングでの学修内容を授業内でまとめるなどの学修プロセスでの評価を組み合わせるなど、生成 AI を活用したとしても本来の目的である到達目標が達成できる方法を工夫・改善していくことが求められると考える。
ありがとうございました。
・学生の生成 AI の利用制限は難しい面があると思うので、文科省の通知をもとに大学独自の方針を示し、周知指導する必要があると思う
・生成 AI の回答で終わることなくその情報をいかに使う工夫が大切と思う。
・プロセス支援は非常に有効だと感じた。色々な場面で活用できそうだが、プロンプトの工夫が必須で、何か事例があると助かる。
・来年度の「初年次基礎演習」等で、生成ＡＩについて学ぶ（リテラシーも含め）回を設けるべきである。
・今後教員間で生成ＡＩを使用した授業展開等に関する情報共有の場があるとありがたい。
・たいへん参考になりました
・様々な状況が今後発生すると思うので、注意深く対応したいと思います。
・うまく生成 AI と付き合う方向で進むと思う。引き続き FD 研修でも扱った欲しい。
・位置づけや大枠が理解できたのはよかったです。
・講師の先生は、最後まで飽きさせない魅力的な語り口でしたが、私自身基本的なリテラシーがないためによく理解できないところが多々ありました。
・現在、私は、大学からの通知に基づいて、授業レポートを書く際の注意事項の中で生成 AI に触れている程度です。動画の質疑応答でやりとりされていたレベルは無理としても、もう少し実際に使って知る必要があると感じました。〞
・卒論など、注意深く見守り、学生にも自分の考えをもてるように指導していきたいです。
・自分自身、生成 AI について、今後より理解を深める必要があると感じている。また、大学独自の方針についても、学生たちに周知し、指導していく必要があると考える。
・追いつかない、というのが正直な感想です。学生の現状としては、「生成 AI を使いこなす」力を育む以前の基礎学力や規範意識等の課題が大きいと感じています。

（３）第 3 回

日　　時：2024年2月16日（金）13:00～14:30
会　　場：宇都宮共和大学長坂キャンパス　5 号館 502 教室
テ ー マ：「シラバスの内容検討」
講　　師：宇都宮共和大学子ども生活学部　教務委員会教員
受 講 者：宇都宮共和大学子ども生活学部　専任教員 15 名
事後アンケート結果：

Q1　シラバスチェックをしてよかったですか

・とても良かった（15 名）

Q2　良かった点はどのようなところですか

・自分の思っていたシラバスにかけている要素があったのに気付き、以後に活かせると思った。
　科目展開、授業構想を意識することができた。
・他の先生方が作成したシラバスをチェック票で改めてチェックをすることで、自分が作成したシラバスの内容の改善点に気づくことができた。
・毎回シラバスを記入する際に戸惑う部分(授業配分、到達目標や採点配分等)があったが、他者の記載例から学ぶことができました。
・分担できたのが良かった。修正点等を共有できたり、一人では気づけない部分を他の先生の目で発見できた。次年度に向けての見通しが持てた気がする（チェック表の見直しにより、段階的に・シラバスを良いものに近づけることができる）
・自分のシラバスの不備な点を知ることができた
・先生方のシラバスを読むことで、授業を履修して学習目標を達成していくための視点等について学ぶことができた。
・書式の統一や授業の DP との関連性、評価の観点についての共通理解が深まった。
　内容の共有ができ、ホーマットが統一された。
・他の先生方の評価方法や観点が参考になった。自身のシラバスもチェックしていただくことで、改善点が明確になった。また、他科目の内容を知ることでき、学生が日頃どのような学習をしているかを少し知ることができた
・他の領域など担当科目以外シラバスを読む機会はなかなか無いため、学生の学習内容を知ることができました。また、文言の選び方はじめ先生方の丁寧なお仕事に触れることができ、自身の改善点を発見することができました。
・大学全体のシラバスの統一感がでて、外部公開しても概ね見やすい形式になったと感じること。シラバス作成にあたっての注意点やポイントについて再確認できたこと。
・年見直しを・・と思いつつ忙しい時期ということもあり、あっという間に締め切り日がきて「昨年度と同じで」という感覚で提出してしまっていた。今回チェックが入ったことで、良く見直すことができ、ご指摘いただいた箇所以外でも多々訂正すべき点が見つかったこと。″
・他の授業の具体的な内容を知ることができ、また事前学習と事後学習の工夫や評価の方法についても参考になりました。
・全員で集まって一斉に取り組んだことで、集中して取り組めたのもよかったです。
・その場でチェックの際の不明点を確認できたことも有難かったです。

Q3　良くなかったところはどのようなところですが

・準備用の仕分けをしたが、手違いで資料が別の所に紛れ込んでいることがあり、もう一度確認すべきだった。
・複数の目で見ることは、一人当たりの負担が減るのは良いが、ジャッジの基準が人それぞれになるため、統一感を取るという点では良くないのかもしれない。″
・シラバスの手引きの内容を十分理解していなかったところ
・特になし（6 名）
・仕方のないことですが、時間を取られるところ。でも桂木先生はじめ教務の先生方が作業しやすく準備してくださっていたので助かりました。

Q4　シラバスチェックに取り組んで自身の授業に反映できることがありましたか

・毎回の授業キーワードを意識したり、事前事後学修の在り方を考えるきっかけになりました。
・日々の授業とカリキュラムマップとの対応をより意識できそうです。
・授業外の学習方法について、学生たちへもさらに説明を加えていきたいと思いました。″チェックすることで、他の科目の授業内容や方法を真剣に見ることができたので、新年度からの授業には活かせると感じた。
・各会の授業目的を学生にわかりやすく説明することが必要であると改めて感じた。スペースの都合上、書ききれない部分は授業の中で丁寧に説明したい。
・シラバスチェックの中で授業外における学修方法として、先生方がどのようなことを設定しているのか詳しく知ることができた。様々な方法を書かれていたので、それらを今後の授業や授業外における学修方法に活かしていきたい。
・自分の授業の方法や評価基準等について見直す良い機会となった。
・授業の展開の工夫に参考になった。
・アクティブラーニングを自身の授業にもっと取り入れられる可能性を感じた。今後に反映させていきたい。
・評価の観点
・評価基準の見直し
・授業形式（アクティブラーニングの内容)。
・類似科目をしっかり比較して内容を整理できたこと。
・今後は、毎回の事後課題と事後学習の課題をリンクさせて、学生が復習をしやすいようにしようと思います。また、他科目で内容的に同様の項目を扱う場合に、その先生の当該授業の具体的な内容や方法を伺うことで、学生にとってより学びが充実したものになるようにできればと思います。

Q５　今後のシラバス作成に活かせそうなことをお書きください

・目標と評価の観点の一致と、目標が可視化できる文言にしていこうと思った。
・授業外における学修内容について参考にさせていただきます。ご準備等ありがとうございました。
・先生方の授業概要や到達目標の書き方は、大変参考になりました。今後、もう少し工夫をしていきたいと思います。
・他の教員が書いたシラバスをチェックすることで、自身の内容をふり返ることが出来た。また、表現方法や事前事後学習の内容も参考になった。
・他の先生方が実施しているアクティブラーニング
・各授業における学習目標の設定、目標達成に向けた準備等を検討していくことができたため、その視点を今後のシラバス作成に活かしていきたい。
・用語や表現の統一、教科書の表記の取り扱いなど予め明らかにしていると作成や点検の作業がより簡易になったと思われ、今回で整理できたところは次回に活かすようにしたい。
・評価方法に活かそうと思った
・シラバス作成についての共通理解が深まったので、ポイントを押さえながら改善していきたい
・観点や使用する文言など、シラバスチェックを行うことで理解が進みました。
・事前事後学習の具体性を今後より明確にできそうである
・今回のシラバスチェックで他の先生方の成績評価の方法・基準について知ることができた。今後の参考にしたいと思う。
・短大は準備学習やオフィスアワーの欄に記述する雛形の文章が「シラバス作成のお願い」に書かれていて、それに統一するようにとの指示であった。
・今後もシラバスチェックを行うなら、同じ文言に統一できるところはしてしまった方が、チェックするときの作業が簡単になるのではないか。

（４）第４回

日　　時：2024年3月1日（金）14:30～16:30
会　　場：宇都宮共和大学長坂キャンパス　研究室（各自）
テ ー マ：「ポートフォリオ」
講　　師：宇都宮共和大学子ども生活学部　教務委員会教員
受 講 者：宇都宮共和大学子ども生活学部　専任教員 15 名
意見交換・協議、事後アンケート結果：

Q1　どのような点が参考になりましたか。

・学生の発表ではポートフォリオとしての学習者自身の学びの成果や課題が示される内容

で、学生指導がしっかりしていることも伺えた。保育者養成校としてここまでの指導を丁寧に行っていることは自信を持って良いと考える。また、量的研究としてのアプローチも大変素晴らしい。

・現場では、「成績が良い学生が良い保育ができるわけではない」とよく言われていましたが、その話しを思い出す内容でした。

・市川先生がショーンの省察的実践家の話しをされていましたが、まさにその通りで保育者に必須な省察力という専門性が高まっているからこその結果が現れていると思いました。

・実習日誌は省察力を高めるためのものですが、この結果との関連があれば苦労の甲斐があるなあと思ったところです。

・学生が自身の学びや成長をどのように捉えているか、また GPA との関連性があるかなど、興味深い内容であった。保育者効力感については学年の特徴も表れているように感じた１年生に関しては自己肯定感が高い学生が多いようで、今後が心配になった。

・学生にとってのポートフォリオの意義が再確認できた。

・GPA と目標達成度との関係についてです。

・1 年生から 3 年生の各年度ごとの目標達成度と GPA の関係性についての内容が興味深かった。学年を超えたポートフォリオの共有により、各学年の気づきや学びが明確になっていたこと。

・学生が自分の成長をどのように考え、感じているのかという点について学ぶことができ、とても勉強になりました。

・保育者効力感と GPA との関連性や学生の主観的評価と GPA の関連が数値化され、今後の研修課題が見えてきたところ

Q2　このポートフォリオの取り組みを今後どのように活用していけばよいと思われますか

・分野別に GPA を出したら面白いと思う。

・この方向でよろしいので、この成果を学生や社会にフィードバックすることを考えると良いと思います。また、卒業生へのアンケート調査とも繋げて学習成果の可視化が学内での学びで終わるのではなく、卒業後にどのように活かされているかまで（あるいは活かされていないかも）見えると、保育者養成校として今後の教育の方向性や課題も見えてくるのではないかと考えます。

・2024 に４年生になる学生に対する対応が最優先ですが、１年次から積み上げてきているスライドをどう活用するか、が課題です。一つは DP の達成ができているか否かを（学生も教員も）視覚的に見られると良いと思います。４年次の最初にこれまでを振り返り、４年次の目標を具体的に出せると良い。

・ポートフォリオの発表時、見学可能な教員は参観できると良い。また、担当する科目の

教員や担任から見た学生の特性や育ちをどこかで共有できる場があると、全体としての共通理解につながるかもしれない（ただ、先生方のご負担が大きくなる）
・経年的な効果検証を行い、現 3 年生から得られた課題をヒントに活用方法を見出していきたい。
・学生が自分でフィードバックして、経年的にどのように成長すべきか、そして取組、結果はどうだったかを振り返るような仕組みをきちんと作れればよいと思う。
・学生面談でも活用できると良いのかなと思いました。
・この取り組みを継続し、各学年の傾向を理解し、授業に活かしていくことです。４年生のポートフォリオもですが、可能なら保育者１年目の卒業生まで追跡調査できたら良いと思いました。
・学生が自分の学びを振り返る機会を重ねていくことで、保育現場に出た際にも自分の保育を振り返り自分の成長を感じたり、課題を見つけたりしていくことができるのではないかと思いました。
・卒業後もこのような形で自らの学びをポートフォリオにするような機会があると、卒業生の成長や学び等も捉えていくことができかもしれないと思いました。
・大学認証

Q3　今回の研修のポートフォリオに関するもので、ほかに取り上げてほしかった内容などありますか。

・今回、卒論担当者に３年生の発表を聞いていただきましたが、それを聞いて、どう感じたかを知りたいと思いました。
・今回の内容でも十分でしたが、たとえば１人の学生の４年間分のポートフォリオも見てみたいです
・分野別の GPA を算出したかった。
・学生が振り返りをして、自己評価をする際の根拠となる客観的資料の収集について

Q4　その他、感想・ご意見等ありましたら、お願いします。

・個の学びの成果を縦断的にみること、実習などの体験を通じて保育の仕事の意義や責任も自覚されたことが自己評価にどのように反映されているか、部分的ではありましたが、ボランティア活動を通して専門性のみならず、人間性の成長にどう繋がっているか、など 4 年間の学生の学びや成長の実態を明らかにしていく上で、今後の課題もあると感じられました。教員全員で協力してこれを解明していくことができると良いですね。とても意義深い研修でした。改めて、ご準備頂いた先生方に感謝申し上げます。
・保育者効力感尺度は、一人の学生が今後どう変わっていくかを追っていきたいです。実習を経験して、数値は下がると思いますが、これを学生指導にも活かせると思いました。
・お忙しい中ご準備ありがとうございました。実習の個別の事後指導時に子ども理解や保

育者の役割について、学生から素敵な気づきや学びが語られることがあります。しかし、実習日誌に記載はなく、実習先の先生方にも伝えていないとのことがあります。今回のポートフォリオの中にも語られていない学生の気づきや学びがあるのかもしれません。日頃の授業の中で対話を繰り返し、学生が学びを言語化できるよう意識していきたいと思いました。

・今回のFD研修でポートフォリオの可能性や学生が学びを振り返ることの大切さについて学ぶことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

・霜触先生　いろいろな分析と考察をしていただきありがとうございました。

Ｑ５　次年度の研修内容への要望

・学生の学習過程自己評価方法を研修したい。

・海外を含めた他大学の様子を知りたい。

・少なくても来年度まではこのテーマを追求してもよろしいかと思います。

・合理的配慮について専門家から学んでみたいです。

・①ポートフォリオ、②AI に関する FD(2023 からレベルアップした内容）をお願いしたいです

・ポートフォリオは今後も学ばせていただけるとありがたいです。

・学生同士の人間関係構築の支援方法について。

・ポートフォリオについては、次年度も計画していただきたいと思います。

・１年生から４年生までのポートフォリオを題材にお話をうかがいたいです。

・学修に困難を感じる学生への授業方法

・生成ＡＩを活用したレポート作成（学習に活用する生成ＡＩ）

2023年度キャンパス・ハラスメント研修会報告書

オンライン研修会に関するアンケート結果

2024/02/20 キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会作成

1. 概要

宇都宮共和大学子ども生活学部およびシティライフ学部、宇都宮短期大学所属の全教職員を対象として、キャンパス・ハラスメント・防止・啓発研修会を実施した。本研修会は、①職場におけるハラスメントの基本を学習あるいは再確認すること、②アンケートに回答することにより、自覚的に振り返りを行う機会とすることを目的として実施された。2023年度は、職場におけるハラスメント対策研修として作成された厚生労働省の動画1本と確認テスト・受講証明書付きオンライン研修講座 1 本の視聴後、アンケートに回答することで完了とした。実施期間は、2024年1月4日から2月16日までであった。アンケート回答結果を以下に記した。

2. 回答者の所属

全回答者70名の所属先の内訳を図1に示した。

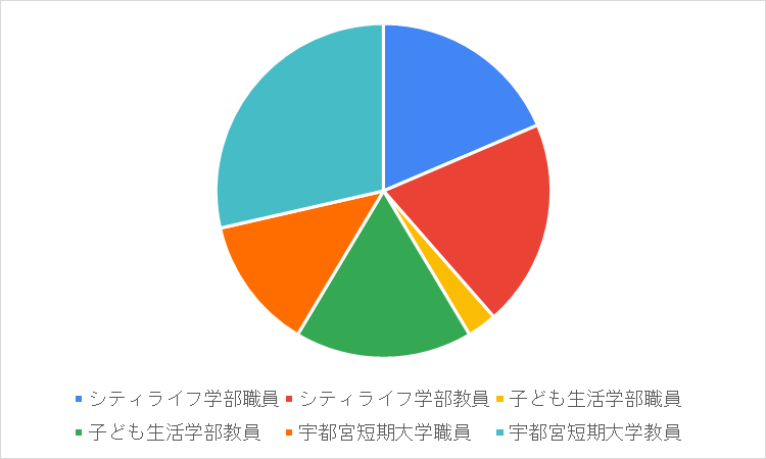


図1 回答者の所属先

3. 講習内容の理解のしやすさ

「今回の講習の内容は、理解しやすいものだったでしょうか。1-5のうち1つを選択してください。」という質問に対する回答結果を図2に示した。

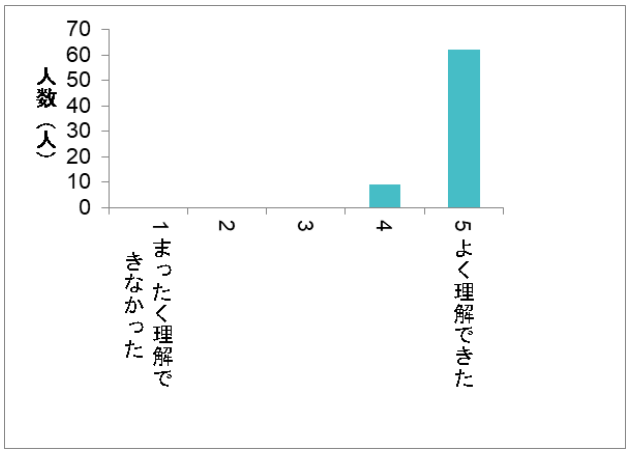


図 2　講習内容の理解のしやすさ別人数

4. 講習の有意義さ

「今回の講習は、あなた自身にとってためになるものだったでしょうか。1-5 のうち 1 つを選択してください。」という質問に対する回答を図 3 に示した。

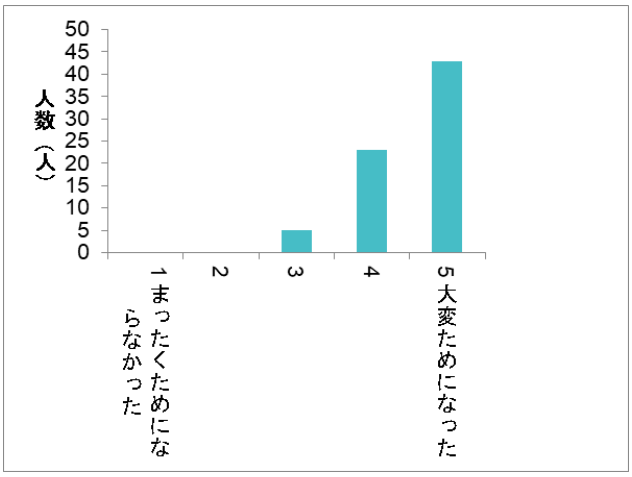


図 3　講習の有意義さ別人数

5. 感想・意見

「今回の講習について、何かご感想やご意見がありましたら、自由にご記入ください。」という質問に対する主な回答を以下に示した。

- YouTube の動画は企業向けのものでしたが、大学でも通用するもの（特に相談者、当事者への傾聴の進め方等）が多々あり、大変参考になりました。また、オンライン研修講座は、動画の講義を視聴した後、ミニテストがあり、自分の理解度がすぐに確認できて良かったと思います。

- キャンハラを起こさないためにも、日頃から明るい職場づくり、風通しのよい職場環境づくりに自分なりに努めたいと思いました。
- 動画を視聴して大変勉強になりました。情報のご提供、ありがとうございました。
- ２つの研修とも、洗練された簡潔明瞭で分かりやすい内容でした。
- 基本的なことは理解しているつもりだが、定期的に繰り返し確認して自分の行動を振り返ることに意味があると思います。その意味で、確認テストがついた動画はとても良いと思います。
- 自分の時間に合わせて研修できるので便利でした。
- 法的な理解を深めることができた。知っている内容も含まれているが、繰り返し定期的に確認するこうした機会は重要と感じた。
- 基礎・基本的な事柄の確認にはなった。
- 具体的な例が出てくるので分かりやすかった。
- ハラスメントについて確認ができた。本学の教員用のハラスメント相談窓口はどこなのかわかりませんので、教えていただきたいです。
- 今回の研修も、大変わかりやすかった。
- ハラスメントの概念を再確認できました。
- ご準備ありがとうございました。わかっているつもりでも、あらためて基礎的な内容に触れ、襟を正しました。
- 短時間で取り組め、分かりやすい内容でした！
- ハラスメントの基本について、改めて確認する機会となりました。
- 具体例があり、資料も整理されていて分かりやすかった。
- 各教員のハラスメントの可能性を自覚し、そのようにならないためにも、時々受講することはよいのではないかと思われます。
- 頭では理解しているつもりでも、気付かずハラスメントのような言動を取ってしまっているかもしれないと思った。充分注意していきたい。
- オンデマンド研修は、日時が調整できるので受講しやすいです。
- 方針や対応について要点がまとまっており、理解を深めることができました。ありがとうございました。
- 各々自分で時間を取って研修動画を視聴するという形式が、時間に縛られないためやりやすく、良かったです。
- パワーハラスメントは、ここで説明されているものより、分かりづらく陰湿なものが横行していると思います。
- 研修会の案内が教授会資料と異なり、わかりにくかったです。
- わかりやすく、ためになった。

6. 今後の研修会に望む内容

「今後の研修会に望む内容などがありましたら、自由にご記入ください。」という質問に対する主な回答を以下に示した。

- ハラスメントの基本的な概要が再確認できる研修を望みます。
- この研修会の開催（企画）は、UCC・NGC・短大の持ち回りにしてはどうでしょうか？
- オンライン講習会は自分の時間に合せて聴講することができ、良いと思いました。
- 今回と同様にWeb形式での研修を望みます。もう少し時間が短いとなお良い。
- 事例や実践に基づいて現場で起こりうる問題の対処方法を学べる、教育に資する内容の研修を期待する。
- AIに関する研修
- キャンパスハラスメントを防ぐための他大学での取り組み
- オンライン研修と研修期間が設定されていてとても良かったです。
- アカデミックハラスメントに関する内容の研修
- 学習障害や低学力の学生に対する指導や合理的配慮について、実践例から学びたいです。
- 今後ハラスメントに関する研修があるのであれば、労働者一般のハラスメントだけでなく、学校に特化したものなども加えたものがよいと思います。
- オンデマンド研修を希望します。
- 他大学で問題になった事例などを取り上げていただき、ケーススタディとすれば、より発展的な研修になると思います。
- いつも大事な情報を学ばせていただき、ありがとうございます。

Ⅴ．教員相互授業参観

FD 研修の一環として教員相互授業参観を実施する。

教員相互授業参観は、参観者が参観により得た気づき等を自分の講義に実践的に生かすことにより授業改善の一助とすることを目的としている。

１　実施方法

（１）参考にしたい講義を選び、実施期間内に参観する。

●最低 1 回参観をする（2 回以上参観してもよい）。

●原則、専任教員による授業を参観する。

●事前に参観を希望する講義担当者の了解を得る。

●開始から終了までの 90 分間を参観する。

（２）参観後、以下をまとめて報告書を作成する（報告書様式については ３ 参照）。

●参観した日時・講義名・教員名および参観の記録

●参観を踏まえた自分の担当講義における改善点などの感想

２　実施期間

2023 年 7 月 3 日(月)から 2024 年 1 月 6 日(土)まで

３　報告書について

●「新サーバー」フォルダの以下の場所に報告書様式があります。記入の上、同じフォルダ内に提出してください。

「各学部学科委員会フォルダ」→「子ども生活学部」→13「自己点検・評価推進部会」→「FD 部会」→「2022」→「教員の相互授業参観」→「報告書様式」

●提出期限

春・秋学期分：2024 年 1 月 20 日（土）

４　その他

●参観者は参観中に学生に話しかける等の私語や迷惑行為を慎む。

●受講ではなく参観であるため、参観者は講義中には質問や意見などの発言はしない。

●報告書は「ＦＤ活動報告書」の一部として掲載する。

2023年度教員相互授業参観報告書（子ども生活学部）

参観者	参観日時	参観科目	授業教員
河田　隆	2024年1月10日1・2限	保育内容相互演習Ⅲ	桂木　奈巳　他
杉本　太平	2024年1月17日4限	保育内容総合演習Ⅲ	市川　舞
桂木　奈巳	2023年11月27日1限	保育内容総合演習Ⅰ	市川　舞
田渕　光与	2023年11月15日3限	乳児保育Ⅰ	星　順子
永山　一夫	2023年11月15日3限	乳児保育Ⅰ	星　順子
蟹江　教子	2024年1月5日2限	子ども家庭支援の心理学	杉本　太平
月橋　春美	2024年1月10日1・2限	保育実習指導Ⅰ（保育所）	星　順子　他
星　順子	2023年11月22日1限	保育・教育課程論	田渕　光与
石本　真紀	2024年1月23日3限	乳児保育Ⅰ	星　順子
松岡　展世	2024年1月15日2限	子ども家庭支援の心理学	杉本　太平
市川　舞	2024年9月28日3限	保育・教育実践演習	田渕　光与
新井　祐子	2023年12月18日2限	フィールドワークⅠ	桂木　奈巳
大島　美知恵	2024年1月26日1限	卒業研究指導Ⅰ	蟹江　教子
霜触　智紀	2023年10月20日2限	フィールドワークⅠ	桂木　奈巳
小野　貴之	2023年12月13日3限	乳児保育Ⅰ	星　順子

教員相互参観報告書

令和　6年　　1月　　10日

参　観　者　氏　名	河田　隆

参　観　日　・　時　限	1月　　10日　1・2時限
科　　目　　名	保育内容総合演習Ⅲ
担　当　教　員　名	桂木先生、月橋先生、市川先生、小野先生

参観の概要

園児を迎えるまでは学生たちは、遊びグループ（アリーナ遊び・外遊び）で準備。園児が来校してから、学生全員で園児を迎え挨拶、遊びの説明、遊び支援の実践。学生達はどのグループも園児ひとり一人に、遊びの支援をしていた。そこには、安全管理を含め、遊びの楽しさをよく説明していた。そして見守るように園児と遊んでいた。どの遊びも工夫され楽しい遊びであった。

自分の講義の改善点

授業の展開を観察すると、園児を迎え遊びの支援をすることに対して、グループワーク・遊びの支援準備・役割分担等、学生たちはよく準備を行っている様子がうかがわれる。これは、グループワーク指導が担当教員により丁寧に指導されていることの成果だと感じられた。学生の苦手な部分であることから、今後グループワークに視点を置き、授業に取り入れていきたい。また、学生自身が活動だけに集中することなく、活動にどう関わったのか振り返り、振り返りの大切さを理解できる講義になるよう改善していきたい。

教員相互参観報告書

2024年　　2月　　2日

参　観　者　氏　名	杉本　太平

参 観 日 ・ 時 限	1月　17日　14：30〜16：30
科　　目　　名	保育内容総合演習Ⅲ
担　当　教　員　名	市川　舞

参観の概要

認定こども園釜井台幼稚園での校外学習（交流保育）の参与観察

【ねらい】

教材研究をもとに保育現場で実践、反省・評価し、子どもや保育の仕組みの理解を深める。

【活動内容】

園長・担当者との挨拶・打ち合わせ/環境構成・準備/子ども達への挨拶・遊びの紹介/交流保育活動（凧/こま・わらべ歌/鬼ごっこ・まり/ゴム・とんとん相撲/ひっくりかえしなど）・片付けと挨拶。

学生達には子ども達が生活している保育場での様子や保育活動を観察学習できることや、大学内にお招きしての交流保育に比べて、子ども達も安心して自然な反応を見せながら遊びを楽しんだり、学生や引率教員と親密な交流ができることなどの様子が認められた。

反省点としては、学生たちの方が事前にもっと遊び込んでおくと、その遊びの楽しさを伝え、子どもの反応や問いかけに対しても柔軟に対応できたと考える。また、事前準備の段階で園の担当者と直接遊びの内容を検討する機会があれば、園の子ども達の状況を把握して遊びの種類や内容もより良くなることや、その園の保育方針や環境構成も理解した上でその場に臨めるものと思われる。

自分の講義の改善点

フィールドワークや学外活動、外部の人や子どもを招いての教育活動・地域貢献活動を行う際の、学生指導の配慮点や地域の環境や人材の教育への活かし方などの点において、参考となる知見を得ることができた。

特に、学生の能力や集団力量に関するアセスメントや地域の人材や環境へのアセスメント、それを教育に繋げる際の効果とデメリット・リスクに関するアセスメントをしっかり行い、事前の準備を適切に行うことの意義が認められた。

これを今後の自身の講義や教育活動に生かしたい。

教員相互参観報告書

2023年11月27日

参　観　者　氏　名	桂木　奈巳

参 観 日 ・ 時 限	１１月２７日　１時限
科　　目　　名	保育内容総合演習Ⅰ
担　当　教　員　名	市川　舞

参観の概要

授業内容は１１月２２日（水）に実施した、しらゆり認定子ども園との交流保育の振り返りだった。学生はあらかじめ課題（ふりかえりシート）を作成して持参し、この内容について、子どもの興味関心と保育者の姿を共有していた。

その後、学生はグループ毎に発表を行った。発表の過程で、担当教員は「子どもの興味関心をひらいた環境とは？」「どのような保育内容を経験できたか？」に触れて発表するように声かけをし、学生から出てきたキーワードを拾い上げ、子ども理解の進め方や保育者としてのあり方・ふるまいを言葉にして改めて学生に伝えていた。

自分の講義の改善点

従来は交流保育を欠席する学生はほとんどいなかったが、この学年は欠席者が多い。さらにこの授業においても欠席や遅刻が多く、課題をしてこない学生も散見された。

自分自身の受け持つ科目においても１年生の欠席は目立っており、例年にない傾向である。また、反応が薄い学年でもあり、自分の授業で感じていたことは、他授業でも同様であることがわかった。他の授業の参観により、各学年の特性がよりわかりやすく、授業を進める上での参考になった。

授業担当者は学生の様子を敏感にとらえて即座に分析し、学生の話し合いの場面においてはポイントをこまめに確認して、授業のねらい（交流保育の目的）を達成しようと工夫を凝らしていた。臨機応変に授業の進め方を変える工夫はぜひ取り入れたいが、これを行うには、日頃から学生の様子をよく観察し、特性を理解しておく必要があり、他教員との情報共有等が必須であると感じた。

教員相互参観報告書

R5年１１月１６日

参　観　者　氏　名	田渕　光与

参 観 日 ・ 時 限	１１月１５日　３限
科　　目　　名	乳児保育Ⅰ
担　当　教　員　名	星　順子　先生

参観の概要

乳児保育Ⅰの８回目の授業を参観した。

２年生の授業である。２年生は同時に保育内容系や保育者論、保育・教育課程論、幼児理解、社会的養護等、専門教育科目のうち、保育と教育に関する科目を多く履修する学年であり、それを生かした実習が始まる学年でもある。その中でも、乳児保育は、保育所実習の要でもある科目である。保育所保育指針においても、発達の著しいこの時期に、養護及び教育の一体性を強く意識することが強調されており、重要な科目として認識している。

乳幼児の保育に、学生がどのように向き合い、理解を深めているのか、授業の参観を通して学ぶことを目的とした。

自分の講義の改善点

２月に行う保育所実習について、この度の１０月の教育実習の振り返りとともに、意識づけをして授業が始まった。教育実習で得た知見、体験に意味づけを行い、保育所実習ではそれに基づいた、乳幼児理解、保育所の理解、保育所の役割理解の視点をもって実習に臨めるような導入であり、取り入れたい。スライドの最初には、保育場面の写真が映し出され、その場面における子どもの学び、保育者の意図について考えた後、保育の言葉をもって意味づけをしていた。学生の手元には、スライド資料を印刷されたものがあり、本日の授業のねらいが、授業の流れに沿って修得していけるように編成してあった。資料冒頭は保育雑誌からのイラストで、保育指針の改定がなぜ行われたのか説明があり、学生にとって効果的であった。自分の授業スライドは、思考を促す問いで構成されていることが多く、解はワークシートに書く方法を取っているため、今後、スライド資料に解を書き込む方法も検討していく必要があると感じた。また、学生が「保育所保育指針」を手に取り、活用できるように配慮がしてあった。随所に指針を手に取る経験を自分も盛り込んでいきたい。

さらに、全体の流れが、本日の授業のねらいを学生に落とし込む構成で、枝葉に話が行ってしまいがちな自分の授業を振り返る機会となった。

教員相互参観報告書

2023 年 11 月 17 日

参　観　者　氏　名	永　山　一　夫

参 観 日 ・ 時 限	11 月　15 日　3 時限
科　　目　　名	乳 児 保 育 Ⅰ
担　当　教　員　名	星　順子　先生

参観の概要

① 出席確認
② 「今日の一枚（写真)」
　園庭で遊ぶ子供たちの写真を見て、気付いたことを発表
③ 本日の学習のねらいの確認
　・指針改定の意図　　・０歳児からの一貫した教育
④ 指針改訂の背景と３視点５領域
⑤ 事例の検討
⑥ まとめ

自分の講義の改善点

パワーポイント、テキストを併用しての講義であったが、学生への問いかけ、学生とのインタラクションをベースに授業を進めていたことが印象的だった。以下のような点が参考になった。

・最初の「今日の一枚」では、今まで学習したものの振り返りと本時の内容への導入が自然な応答の中で行われていた。
・テキストを用いた部分では、順番に音読させたり、該当箇所を探させたり、メモを書き入れさせたり、意見をシェアさせたりと、学生の能動的取組を促す工夫がされていた。
・机間巡視を頻繁に行い、学習や話し合いの支援を行っていた。
・事例検討を通して、本日のポイントとなる３視点５領域、「受容的」「応答的」という語の持つ意味を繰り返し確認し、理論から具体への理解の深化を図っていた。
・本時の学習を実際の保育実習にどのように生かしていくか上級生の例も挙げながら具体的に説明していた。

自分の担当する英語の場合、言語の使い方の習得が主な目的となるためトレーニング的な学習が多くなるが、今回学ばせていただいたような学生の主体性を中心とした学習活動を多く取り入れ、学生のより能動的参加姿勢を引き出していきたいと思う。

教員相互参観報告書

2024年　1月　5日

参　観　者　氏　名	蟹江教子

参 観 日 ・ 時 限	1月　5日　2時限
科　　目　　名	子ども家庭支援の心理学
担　当　教　員　名	杉本　太平　教授

参観の概要

サイコドラマの手法を用いた事例研究授業であり、学生は6～7人程度のグループに分かれて子どもや家庭を支援するためのドラマを考え、演じていた。

今回の授業では「視聴障害を持つレン君に対するいじめ」「ギャンブル依存症家庭における子どもの育児放棄」「ひとり親家庭における母親の子育て困難と貧困」という3つのサイコドラマが演じられた。設定が甘い部分もあったが、問題の背景や原因、支援・対応策などについて学生なりに検討した様子を随所に伺い知ることができた。単なる知識にとどまらず、当事者の心理状態にまで踏み込んでいた点が新鮮であり、また支援者として重要であると感じた。

自分の講義の改善点

入学当初から基本的学力と学習意欲に差が大きく、授業中の私語が多い学年であった。担任学年であるが担当受業がないため授業態度など学びの様子が気になっていた。

もともと担当科目は講義形式が多く、知識の獲得を目標とすることが多い。その反面、習得した知識が学生の中でどのように他の科目と結びつき活用・応用されているのか、常に気になっていた。今回の参観をとおして知識の応用と実践が必要であることを再確認した。

これまで学んできた障害児、いじめ、児童虐待、貧困などの現象を、想定される具体的な場面に落とし込んで、その解決策を学生自身に考えてもらうというアイディアは素晴らしい。登場人物の心理状態やその変化までサイコドラマでは考慮しているため、学生は（将来、遭遇するかもしれない）リアリティーを持った場面として捉えているようであった。

科目によっては実践までつなげることは内容的にも時間的にも難しいが、可能な科目から応用、実践場面を想定できるようにしたい。

教員相互参観報告書

2024年　　1月　　5日

参　観　者　氏　名	月橋　春美

参 観 日 ・ 時 限	12月　22日（金）1限
科　　目　　名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
担　当　教　員　名	星順子先生、松岡展世先生、小野貴之先生

参観の概要

2月に行われる保育所実習に向けての事前指導の授業内容であった。

授業前半は、3名の教員から、実習前の指導として、保育所についての施設説明や実習中のマナーやルール、実習目標の書き方などについて説明があった。学生たちはとても真剣な態度で、メモを取りながら真剣に聞いていた。保育所実習が初めてであり、観察実習に比べて、11日間と実習期間も長くなるため、緊張感もあるように見受けられた。先生方は、学生たちに問いかけながら、また、学生たちの反応をみながら、時折、学生たちに質問するなどして、学生たちの理解を深めているように感じた。他の授業ではあまり見られない緊張感を感じた。実習は学外で行われるため、学生たちもそのことが少しずつ緊張感を持ち始めているように思われた。また、後半は実習目標の作成を行った。先生方が内容を確認してくださった目標が本人に返却され、再度修正を行った。修正内容に質問のある学生などは、担当の先生の所に質問に行っていた。実習目標の作成においても、多くの学生が積極的に取り組んでいた。

自分の講義の改善点

参観をして感じたことは、とても緊張感のある授業であり、自分の授業でも、話を聞くときはこういう雰囲気を作りたいと思ったことである。実技が多いため、学生たちがワイワイガヤガヤ楽しそうに授業に参加していることが多く、楽しく授業に参加してくれていることは良いことであるが、怪我の防止や指導のポイントなどを伝える時などは、メリハリをつけて授業に参加してもらえるよう、今後は雰囲気作りを工夫したいと思った。

今回学んだことを、今後の自分の授業にも活かしていきたい。

教員相互参観報告書

2024年2月1日

参　観　者　氏　名	星　順子

参 観 日 ・ 時 限	11月　22日　1時限
科　目　名	保育・教育課程論
担　当　教　員　名	田渕　光与　先生

参観の概要

指導案の立案方法を学び、実際に指導案を作成するという授業内容で、学生は個別のワークシートを用いて各自の指導案を作成していた。今回の授業では、教科書の事例(5歳児、2月、ドッチボール)を基に、「保育者の援助と配慮」を考案していた。記載された内容に目を通すと、語彙や表現力に差はあるものの、この時期の子どもたちに何を配慮しなければならないのか、という視点を持って作成していることがわかる内容となっていた。子どもの育ちの様子が具体的にイメージできるような指導と重要な箇所の確認を丁寧に行っているからこその学生の姿であると感じられた。作業中は、個別指導で対応、それぞれの学生に合わせて、学生が自ら気づくような問いかけがあった。ワーク終了後には、自分の工夫した内容に線を引く、実際の保育現場で作成された指導案と回答例が配布される等、工夫に満ちた授業であった。私の授業では居眠りをする学生数名が、能動的に取り組んでいる姿もとても印象的であった。

自分の講義の改善点

「保育実習Ⅰ」を控えた学生たちの姿勢が気になったことと、指導案の教授方法を学ばせていただきたいと考え参観させていただいた。まず、授業で扱っていたテーマが「2月の部分実習」で、学生が2月の保育実習Ⅰをイメージできる題材になっていた。学生たちの意欲の向上にもつながり、保育実習担当者として大変ありがたく感じられた。2月に部分実習を経験する学生には、今回の学びを振り返る機会を作って送り出したいと思った。

「保育実習Ⅰ」では、全体的な計画や指導計画と日々の実践のつながりを学習する必要があるが、今回の取り組みのように実際に立案する経験を持つことで、計画と実践の関連やその必要性についての理解がさらに深められると感じた。

指導案の指導は、「保育実習指導Ⅱ」のなかでも取り組んでいるが教授方法に難しさを感じていた。今回の参観では、立案の具体的な観点を丁寧に示すことの大切さや、学生が自ら気づけるような問いかけを用意すること、学生が能動的に参加できるような働きかけの工夫の必要性に気づくことができた。今後、「保育実習指導Ⅱ」なかで取り入れていきたいと強く思う。

教員相互参観報告書

2024年　2月　20日

参　観　者　氏　名	石本　真紀

参 観 日 ・ 時 限	1月　23日　3時限
科　　目　　名	乳児保育Ⅰ
担　当　教　員　名	星　順子先生

参観の概要

・来月に保育所での実習をひかえていることもあり、学生が授業に集中し取り組んでいた。
・保育環境については、保育園での子どもの姿がイメージしやすいように写真を投影しており、学生たちも熱心にその様子を見ていた。
・はじめに本日の学びの内容を押さえた上で、講義、動画視聴、保育実習室での演習（人形を使っての授乳体験）、講義、まとめで構成されていた。動画を通して授乳時の保育者の子どもへのかかわりや子どもの状況を見て確認し、自ら体験を通して学び、振り返るといった学びが定着しやすい構成となっていた。今回の授業はクラス別であり、講義の際には学生にこれまでの学びについて質問しながら意見を求め、演習時には学生一人ひとりの様子を見て、丁寧に声をかけている姿が印象に残った。
・資料は簡潔でわかりやすく、時折自分で考えるワークもあり、学生たちが主体的に学ぶことができるよう工夫されていた。

自分の講義の改善点

・授業時に配布する資料については、情報を盛り込みすぎる傾向にあるため、授業の学びのポイントがよりわかりやすいものを作成していきたい。
・今回参観させていただいた乳児保育の授業では、保育環境についての写真を見ながら、乳児保育での学びを確認し、実習で学んで欲しいことが明確になっていた。現在担当している保育実習Ⅰ（施設）に深く関連する授業において、参考にしながら授業をおこなっていきたい。
・担当科目として講義科目が多いため、時間的に制約はあるもが、小グループで話し合う等のアクティブラーニングをより多く取り入れ、学生が主体的に学ぶ環境を整えていきたい。

教員相互参観報告書

2024年　2月　5日

参　観　者　氏　名	松岡 展世

参 観 日 ・ 時 限	1月　15日　2時限
科　　目　　名	子ども家庭支援の心理学
担　当　教　員　名	杉本太平

参観の概要

あらかじめグループごとに発表準備をしていた事例の場面を、グループごとに前に出てロールプレイをして発表するという回であった。

・グループの発表後、学生に感想を聞いたり、教員がコメントを加えたり、その場でサイコドラマの手法を用いて、ロールチェンジやモノローグといった介入を行っていた。ロールチェンジでは、母親役をしていた学生が保育者役になるなど、身をもって気持ちを体感した上で、保護者対応することにより、体感的な理解を引き出すように働きかけられていた。

・学生の発表の後で、担当教員の先生が保育者の役割をとって母親役の学生とデモンストレーションを行うことで、学生たちは、どのように対応するのかを言葉だけでなく非言語的な側面も含めて目の当たりにすることができ、そのあとの解説でどのような理解と方針に基づくものだったのをきいて、実践的な理解を深める工夫がされていた。

自分の講義の改善点

サイコドラマの手法を用いたアクティブラーニングの手法が大変興味深かった。学生たちも全体の前で役割を取って演じることができており、同学年の授業で学生の全体発表への関与度を高める上で苦戦していた私にとって、非常に刺激的であった。

学生たちがこのように発表できるまでには本授業の中で複数回にわたる丁寧な積み重ねの指導があると伺った。本回だけを安易に取り入れることはできないと思うが、以下の点を取り入れて講義を改善していきたい。

・自分の講義では、これまで現場の保育士の方向けに行っていたような説明と導入でロールプレイを実施してしまっていたため、できる学生とできない学生とがでていた。今後、ロールプレイなどを取り入れる際には、事前に事例の共有や理解を深め、ロールプレイの意図ややり方の説明、グループでの作業時間をとることでグループ内の安心感を高めるなど、学生の反応をみながら丁寧な準備段階を設定したい。また、学生にデモンストレーションを見せることで、見通しが持てたり、モデルを得られる助けになるようにしたい。

教員相互参観報告書

2024年　2月　5日

参　観　者　氏　名	市川　舞

参 観 日 ・ 時 限	9月　28日（木）　３時限
科　　目　　名	保育・教職実践演習
担　当　教　員　名	田渕光与先生

参観の概要

小学校における指導助手体験の振り返りの回を参観させていただいた。
幼稚園や保育所など保育の現場で実習を重ねてきた学生たちにとっては、かつて「子ども」として通っていたが、「小学校」は「異文化」のようであった。
授業担当者は、その文化の違いを幼児期の終わりまでに育てたい 10 の姿「言葉による伝えあい」をキーワードに、子どもの発達の特性に応じた指導方法の工夫として気づくことができるように配慮していた。また、幼児期の経験・学びがどのように小学校生活に生かされるのか、幼児教育を通して育んできた「自立心」などにも触れ、幼児期から児童期への発達の見通しを持つことができるようにしていた。

自分の講義の改善点

授業担当者は、学生が自ら気づきを得られるように、学びとして得て欲しいことを直接引き出すのではなく、注意深く学生同士の対話に耳を傾けながら「学生の発話を繰り返す」「再度問い直す」などしながら、周辺から学びを浮かび上がらせるように配慮していた。そうして浮かび上がってきたキーワードをクラス全体で共有し、自分たちで見出した学びとして確認していた。
本授業参観を通じて、授業は学習主体である学生のものであることを再確認した。学生自身が主体的に、対話を通して学びを得ていくための状況づくりの基本に立ち返る、貴重な機会であった。

教員相互参観報告書

令和５年　１２　月　２６　日

参　観　者　氏　名	新井　祐子

参 観 日 ・ 時 限	１２月　１８日　２時限
科　　目　　名	フィールドワークⅠ
担　当　教　員　名	桂木　奈巳　先生

参観の概要

当日の授業内容はお正月遊びの羽根つきに使用する羽子板と羽を制作し、出来上がった作品を用いて実際に遊び、振り返りを行うというものであった。道具の準備、作り方、完成形を用いて活動を行う際のねらいまで見据えた計画性が求められる。また、時間内に作り終えるためには手先の器用さと工程の理解度の両方が必要であり、取り組む姿勢から学生の特性がよく見て取れた。完成形を用いた活動については、羽根つきという相手がいないとできない遊びを通して人間関係にも目を向けられ、体を使って遊ぶ運動にもつながり、保育の五領域全てに関わっている内容であった。

自分の講義の改善点

工作を通して作る喜びを感じ、遊んで楽しむところまでが目的であり、遊んでみてどこが難しいか、子どもたちにはどうしたら扱いやすいのかを考え、改善、工夫しながら取り組んでいる学生たちの姿が印象的であった。担当教員は基本的にはその学生の主体性を大切にし、援助が必要な時を見極め、的確に助言していた。学生への関わり方が大変参考になった。

また、実践して試してみないとわからない気づきが多数見受けられ、しっかりと振り返りを行うことが学びの定着につながることをこの参観で再認識した。自身の担当する音楽の授業では人前で演奏発表する機会を設けているが、発表して終わりではなく、そこに至るまでのプロセスを振り返り、改善点を見出して次に繋げていくルーティーンを意識づけしていくことが大切だと感じた。今回の学びを今後の授業に反映させていきたい。

教員相互参観報告書

2024年2月3日

参　観　者　氏　名	大島美知恵

参 観 日 ・ 時 限	1月　26日　1 時限
科　　目　　名	卒業研究指導Ⅰ
担　当　教　員　名	蟹江教子

参観の概要

学生達にプリント資料を配付した上で、パワーポイントを使用しながら教員が解説する授業形態であった。

まず 4 年生の卒業研究発表会の見学をしたことが授業の一環となっていることなど、これまでの内容を振り返り、今後のスケジュールについて解説をされていた。

その後、単位に関すること、そして執筆に関することがらについて細かな説明を行っていた。資料にはピンポイントの項目のみが掲載されており、執筆については実際の執筆要項をパワーポイントで示しながら説明されていた。

分析方法に関する授業についての告知や担当教員に関すること、アンケートの実施に際して注意しなければならない点についても丁寧に触れられていた。

また本日の授業に関する資料がクラスルームへ投稿されることを予告し終了となった。

自分の講義の改善点

卒業研究は長期間に渡り一つのことに取り組む授業なので、このように詳しく先のスケジュールを説明する授業が必須であるが、自身の担当する教科についても、このような見通しを持ったものを提示して15回の授業を進めていくのも有効と感じた。

自身の担当教科においても初回はオリエンテーションの機会を設けているが、どのような内容を学ぶのか、成績評価の方法など、教師側が今後行うことの説明が多かったように思う。

学生が自身が行うことに計画性を持たせ、授業がどこまで進んだら何をするのか、その作業を通して何を学んで欲しいのかを明確にした資料作りも必要と感じた。

またその資料作りに関しては、今回の授業ではとてもシンプルに作成されており、それゆえにメモを取りながら集中して受講できるのではないかと思った。また必要に応じてパワーポイントで詳しく可視化し、分かり易く説明する場面もあり、聴覚・視覚をバランス良く使った資料作りと講義を見習っていきたい。

教員相互参観報告書

2023年　　10月　　24日

参　観　者　氏　名	霜触智紀

参 観 日 ・ 時 限	10月　　20日　2時限
ド　ド　ン　パ	フィールドワークⅠ
担　当　教　員　名	桂木奈巳　先生

参観の概要

風と緑の認定こども園が来学し、子どもの森教室にて交流保育が行われた。

子どもたちは 3 つのグループに分かれて、入場し、それぞれ興味のある場所に行き、森を楽しんでいた。学生は、子どもたちについてまわり、どのような遊びを行うのか、何に興味を持つのか、生き物にどのように関わるか等を参与観察した。

学生は、どのように関わるか（言動）について、実践的に学びを深めていた。どのような言葉かけが良いのか、どのように一緒に動くのが良いのか、何を子どもたちが求めているのか、多くを体感していたように見てとれた。うまく関わることができなかった学生も、その反省を体感しているように伺われた。

自分の講義の改善点

参観者自身は、担当授業において保育に特化した授業が少ない。したがって、保育に関する授業、とりわけ実際の子どもたちと関わる交流保育で、どのように学生が学びを深めるかについて、勉強させていただいた。

最も感じたのは、現時点で学生によって子どもへの関わり方に差があることである。すなわち、机上の学びと実践的な学びとの乖離が大きくあること、そもそもの子どもとの関わり方の得意不得意があるということが考えられる。参観者は、レクリエーション概論にてコミュニケーションの一部を教授しているが、今回の実践的な授業を踏まえて、年齢別の具体的なコミュニケーション手法についても取り入れる必要があると感じた。

また、参観者の担当する体育・スポーツ系の授業では、子どもたちへのフィードバック等の工夫が必要とされる。どのような声掛けを行うのか、いつ介入するのかについても今回の授業からヒントを得ることができた。

今回学んだことを活かし、自身の授業を改善していきたい。

教員相互参観報告書

2023年　12月　16日

参　観　者　氏　名	小野貴之

参 観 日 ・ 時 限	１２月　１３日　３時限
科　　目　　名	乳児保育Ⅰ
担　当　教　員　名	星　順子先生

参観の概要

・学生に分かりやすく伝える方法や、学生が意欲的に取り組むことができる方法等を学んでいきたいと考え、参観を希望させていただいた。
・乳児クラスの保育環境の写真をスクリーンに映して紹介していくことで、用意されている物的環境の意味について分かりやすく解説されていた。遊びが継続されていくために物を残しておく配慮、見立てて遊べるような玩具等を写真や実体験の話をして伝えていた。
・乳児が安全に生活していくために必要な留意点について、ワークシートを用いて学ぶ機会が設けられていた。学生は乳児にとって危ない環境や場面を具体的にイメージしながら学んでいた。

自分の講義の改善点

・写真が多く、学生は実際の子どもたちの様子をイメージしながら講義を聞くことができていた。自分もこれまでの保育現場での経験を授業で伝えてきたが、言葉だけではイメージすることが難しい場面も多かったと考える。今後は保育環境の写真や動画等を十分に活用しながら、学生がより理解を深められるようにしていきたい。
・講義の中で「この写真を見て、何か気付くことがありますか？」等の質問をして学生とコミュニケーションをとることで、学生が講義に集中して取り組む姿が見られた。また、学生がマイクを持って自分の考えを発表し、次の人にマイクを渡していくことで学生の考えをクラスで共有できるようにされていた。このように学生が考えを発表できる機会を設けていくことで、学生は様々な考えに触れることができることを学んだ。
・保育者になるとできるようになること、日々子どもの成長を感じられること、様々な経験ができること等を講義を通して学生に伝えていた。学生は講義を通して保育のおもしろさ、楽しさを知り、より意欲的に学んでいくことができるのだと思った。自分も保育現場で経験してきた中で感動したこと、うれしかったこと等を学生に多く伝えていきたいと思った。また、これからも保育現場で子どもの様子を観察させていただき、学んだことを学生に伝えていきたいと思う。

Ⅵ. まとめ

2023 年度 FD 活動は、学生による授業改善アンケートや相互授業参観の取組みと、昨年度の研修の評価や要望を踏まえた研修会の開催の二つの事業で活動を進めてきた。

はじめに、学生による授業改善アンケートを基にした取り組みとしては、学生の学びが充実した点について確認し発展するとともに、ポイントが低かった「授業外の学習」が充実するよう、授業と事前事後の課題の必然性を図るなど、改善に努めてきた。さらに、教員相互の授業参観を通して、教員が自分の授業に取り入れたい視点や方法などについて、科目の特性を踏まえつつ授業改善に取り組んだ。

つぎに、FD 研修会の取り組みである。それぞれに、学科にとって喫緊の課題であるテーマを掲げ、６回の研修を企画し、教育・研究内容及び教育方法の改善に組織的に取り組んだ。

その中でも、今般活用の方策が検討されている生成 AI については、その仕組みや活用事例をオンデマンドの動画で学ぶことができた。刻々と活用やシステムの改善が図られていく分野であることから、引き続き動向に注目し、情報の共有に努めたい。

シラバスチェックにおいては、シラバス作成の中で、科目目標と DP との関連や、コモンルーブリックの活用について課題があった。チェックとして他の科目のシラバスを読み込む中で様々な気づきがあり、全員がカリキュラム実施の基本方針を再確認することができ、新年度への指導の質担保につながった。

さらに、学生自身が自分の学びを可視して捉えるポートフォリオ作成の取り組みも、3 年目を迎えた。その間、FD 研修として、DP を視点とした学生の成績と学生自身の自己評価の比較など、積み重ねを経てきた。それらの成果を受け、学生の認識と、科目の成績の関連等についての課題は、次年度の研修としている。

今年度の成果を踏まえ、課題に対しては新たな策を講じながら次年度以降も FD 研修の充実を図っていく。